

## 「令和3年度全国学力・学習状況調査」の結果概況について

富山市教育委員会

### I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### II 実施状況

- 1 実施期日 令和3年5月27日（木）
- 2 調査内容 教科に関する調査 国語、算数・数学  
質問紙調査 児童生徒、学校
- 3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年		中学校3年	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
65校1分校	3,268人	26校1分校	3,199人

### III 教科に関する結果の概況

- 1 教科区分別平均正答率（％）

	小学校6年		中学校3年	
	国語	算数	国語	数学
<b>富山市</b>	<b>66</b>	<b>73</b>	<b>66</b>	<b>59</b>
富山県	67	73	65	59
全 国	65	70	65	57

- 2 結果の概要

- ・小学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は1ポイント、算数は3ポイント上回っている。
- ・中学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は1ポイント、数学は2ポイント上回っている。
- ・平均正答率を県と比較すると、小学校では国語で下回り、算数が同等である。中学校では国語で上回り、数学は同等である。

#### IV 本調査結果の考察

##### 1 教科に関する調査の結果から

##### (1) 小学校国語

以下の集計値は、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の内容・観点  
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る内容・観点  
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る内容・観点  
 ▲ 全国及び県を下回る内容・観点

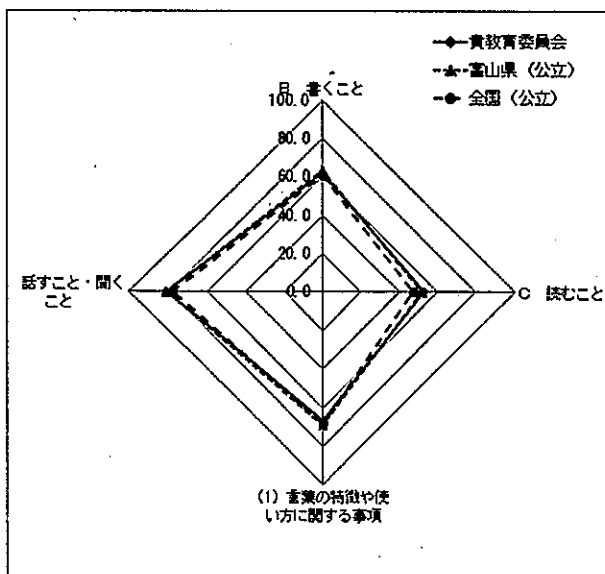
※ 一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	66	67	64.7

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	▲	67.0	69.0	68.3
		(2)情報の扱い方に関する事項	○			
		(3)我が国の言語文化に関する事項	○			
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	◎	81.1	80.9	77.8
		書くこと	○	62.1	63.2	60.7
		読むこと	◎	52.6	51.8	47.2
評価の観点	知識・技能	▲	67.0	69.0	68.3	
	思考・判断・表現	◎	65.7	65.5	62.1	
	主体的に取り組む態度	○				
問題形式	選択式	◎	73.4	73.4	71.7	
	短答式	▲	68.0	71.4	70.6	
	記述式	○	45.3	45.6	40.2	

##### <集計結果>

##### <学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



##### <結果の概要>

- 全国と平均正答率を比較すると、1. 3ポイント上回っている。内容の思考力・判断力・表現力等では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全てにおいて、全国平均正答率を上回っている。
- 評価の観点「知識及び技能」では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題の平均正答率は、1. 3ポイント全国を下回っている。
- 問題形式のうち、「短答式」の問題の平均正答率が68.0%で、全国を2. 6ポイント、県を3. 4ポイント下回っている。「記述式」の問題の平均正答率が、45.3%と低い。

(凡例:○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「話すこと・聞くこと」は平均正答率が81.1%と高く、全国を3.3ポイント上回っている。目的に応じた話の構成や資料の活用など、話の内容が明確に伝わるような適切な表現を選択する力が高まっている。(問題1一、二、三)
- 区分「言葉の特徴や使い方に関する事項」の、「文章中の『より』と同じ使い方のものを選択する問題」では、平均正答率が90.5%と最も高く、語句の使い方を正しく理解している。(問題2二)
- 区分「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「『積(み重ね)』と答える問題」では、平均正答率が45.1%であり、全国を9.3ポイント下回っている。また、無解答率が16.6%と高い。文脈に合った漢字を文の中で正しく書くことに課題が見られる。辞書を活用し、記載されている読み方や意味、例文や熟語を確認すること、辞書で調べたことをもとに、その漢字を使った言葉集めや文づくりなどの学習活動を取り入れることが効果的である。さらに、習得した漢字や熟語を進んで使うことを、他教科等の学習でも繰り返し指導することが大切である。(問題3三(1)ウ)
- 区分「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「文の中における主語を捉える問題」では、平均正答率が全国を2.3ポイント、修飾語と被修飾語の関係を捉える問題では、平均正答率が全国を0.9ポイント下回っている。文章を作成したり推敲したりする際には、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係に着目し、正しい文章の構成になっているかを確認するよう、繰り返し指導することが必要である。(問題3三(2)イ、オ)
- 区分「読むこと」の「目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する問題」では、平均正答率が35.7%と全ての問題の中で最も低い。また、「目的に応じ文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題」も、平均正答率は41.3%と低い。目的に応じて、必要なことや中心となることを正しく読み取り、分量を考えながら文章にまとめる力を高めていく必要がある。そのためには、説明的文章の学習では、文章と図や表を結び付けて読むことや、中心となる語や文を見付けながら読むことを大切にし、その文章が伝えていることを字数を決めて端的にまとめる学習などを繰り返し行うことが求められる。(問題2三、四)

② 国語と他の科目では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。

国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。

国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。

国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。

国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。

国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。

国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。国語と他科目の学習では、身に付いた知識や技能の活用について問われています。

(●問題2四 正答率35.7%)

(2) 小学校算数

<集計結果>

・以下の集計値は、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

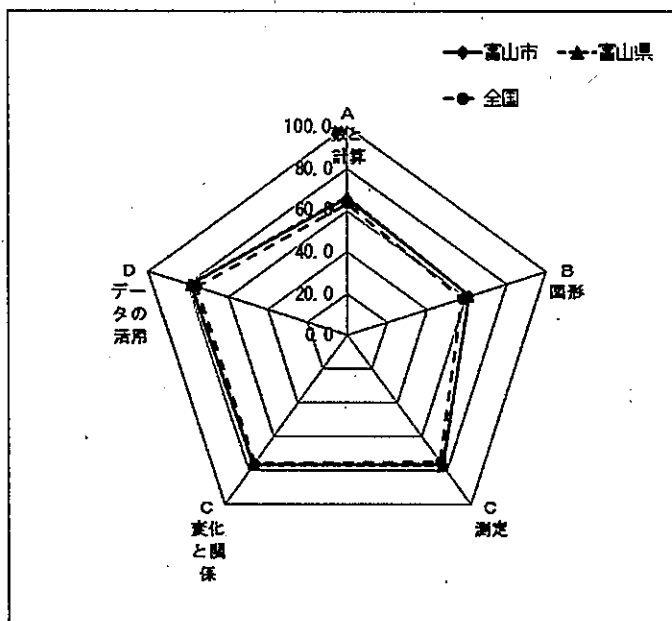
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点  
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点  
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点  
 ▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

※ ひとつの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	73	73	70.2

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域等	A 数と計算	4	○ 65.8	66.2	63.1
	B 図形	3	◎ 61.2	61.0	57.9
	C 測定	3	○ 76.6	76.9	74.8
	C 変化と関係	3	◎ 76.6	76.5	75.9
	D データの活用	5	◎ 79.0	78.7	76.0
評価の観点	知識・技能	9	◎ 76.0	75.8	74.1
	思考・判断・表現	7	○ 68.3	68.5	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	◎ 77.5	77.3	76.0
	短答式	6	◎ 78.2	78.2	75.8
	記述式	4	◎ 57.1	57.1	53.0

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国と平均正答率を比較すると、算数は2.8ポイント上回っており、全ての領域や評価の観点、問題形式で全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「B 図形」で3.3ポイント、「D データ活用」で3.0ポイント全国を上回っている。
- 富山県の平均正答率と比較すると、領域では、「A 数と計算」で0.4ポイント、「C 測定」で0.3ポイント下回っている。また、評価の観点では、「思考・判断・表現」で0.2ポイント下回っている。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

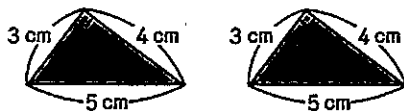
<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

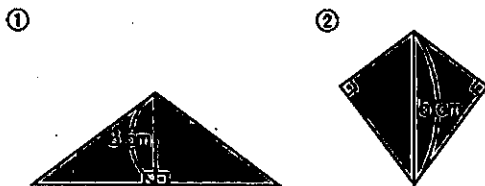
- 区分「データの活用」は、平均正答率が79.0%と5つの区分の中で最も高い。「棒グラフの最小目盛りを捉え数量を読み取る問題」では、平均正答率は96.2%で、全ての問題の中で最も高い。データを分類整理したり、表やグラフからデータの特徴を読み取ったりする力が身につけている。(問題3(1))
- 区分「図形」は平均正答率が61.2%で、全国を3.3ポイント上回っている。「複数の三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と、その答えを式や言葉を用いて記述する問題」では、平均正答率が全国を5.5ポイント上回った。図形を構成する要素に着目して求め方を筋道を立てて説明する場面を今後も大切にしていける必要がある。(問題2(3))
- 区分「変化と関係」の「速さを求める除法の式とその商の意味を選ぶ問題」では、平均正答率が54.9%であり、全国を0.9ポイント下回っている。単位量当たりの大きさの意味や表し方について理解を深め、その大きさを用いて比べることができるように、数直線図や式を用いて段階を踏んで学習を進めることが大切である。(問題1(3))
- 区分「図形」の「2つの合同な直角三角形を組み合わせてつくった2種類の図形の面積の大きさを比較する問題」では、平均正答率が全国より1.1ポイント下回った。直角三角形の位置や向きを変えても面積は同じであるという性質を基に考えられるよう、具体物を用いた活動を通して、実感を伴って理解できる授業を行うことが大切である。(問題2(2))
- 問題形式が「記述式」の平均正答率は全国よりも4.1ポイント高いが、他の問題形式の平均正答率と比較すると20ポイント以上も低い。また、問題形式が記述式の4問中3問の正答率が50%台である。問題解決に至る筋道をノート等に記述したり、ペアやグループ等で説明し合ったりして、考えを言語化する時間を確保することが大切である。

2 (2) 一部抜粋

(2) 図1の直角三角形が2つあります。



上の2つの直角三角形を使い、同じ長さの辺どうしを合わせると、下の①や②の図形をつくることができます。



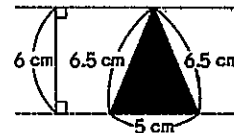
上の①と②の図形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ①の面積のほうが大きい。
- 2 ②の面積のほうが大きい。
- 3 ①と②の面積は等しい。
- 4 ①と②の面積は、このままでは比べることができない。

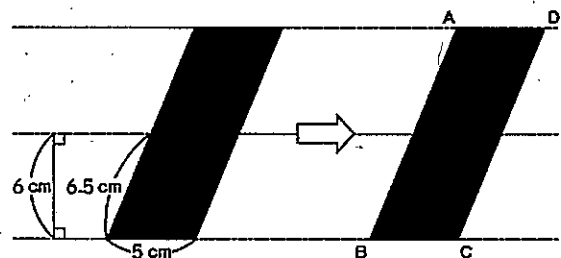
(● 問題2(2) 正答率71.4%)

2 (3) 一部抜粋

(3) 次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。

辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかわかるようにしましょう。

また、平行四辺形ABCDの面積が何cm<sup>2</sup>になるのかも書きましょう。

(○ 問題2(3) 正答率51.5%)

(3) 中学校国語

<集計結果>

・以下の集計値は、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

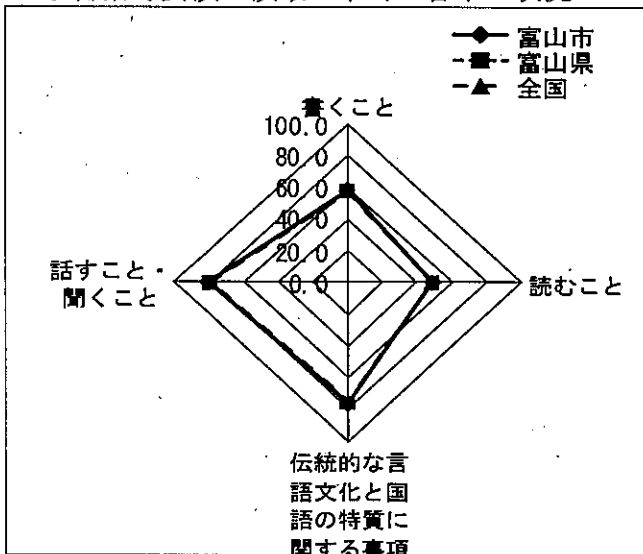
凡例	◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
	○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
	■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
	▲ 全国及び県を下回る領域等・観点

※ ひとつの問題が複数の区分に該当する場合がありますため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	66	65	64.6

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	◎ 81.0	80.5	79.8
	書くこと	3	◎ 58.6	58.3	57.1
	読むこと	4	◎ 49.4	48.8	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	◎ 76.4	76.0	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	◎ 56.7	56.3	56.0
	話す・聞く能力	3	◎ 81.0	80.5	79.8
	書く能力	3	◎ 58.6	58.3	57.1
	読む能力	4	◎ 49.4	48.8	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	◎ 76.4	76.0	75.1
問題形式	選択式	6	◎ 65.1	64.6	63.9
	短答式	4	◎ 76.2	75.6	74.4
	記述式	4	◎ 56.7	56.3	56.0

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国と平均正答率を比較すると、1.4ポイント上回っており、領域、評価の観点、問題形式別でも、全てにおいて全国を上回っている。
- 評価の観点「読む能力」をみる問題の中で、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを書く問題の平均正答率が17.2%と低く、全国と比較しても3.3ポイント低い。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「話すこと・聞くこと」の「話し合いでの発言について質問の意図を捉える問題」は平均正答率が92.8%と全ての問題の中で最も高い。「話し合いの話題や方向を捉えて話す内容を考える問題」は平均正答率が60.5%で、全国を3.4ポイント上回っている。話し合いの展開例を提示して前後の発言内容を考えさせ文脈を捉えることにより、必要に応じて重要な情報を書き留めることを意識付けたりするなどの指導を継続する。(問題1二、三)
- 区分「書くこと」の「伝えたい事柄を相手に効果的に伝わるように書くことができるかをみる問題」は平均正答率が75.1%であり、全国を3.2ポイント上回っている。目的や相手を意識した書く活動の積み重ねによって、伝えたい事柄を相手に効果的に伝わるように書く力が定着していることがうかがえる。(問題4四)
- 区分「書くこと」の「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える問題」は平均正答率が26.8%であり選択式の問題の中では最も低かった。意見とその根拠となる部分の関係を把握することに課題がある。書いた文章を読み返して推敲し、よりよい文章にする活動において、説明や具体例等の表現が自分の考えを明確にするために機能しているか確かめるなど、見直す視点を与える指導や粘り強く取り組む態度を育むことが大切である。(問題2一)
- 区分「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「相手や場に応じて敬語を適切に使うことができるかをみる問題」は、平均正答率が43.5%と低い。敬語の学習では、知識の習得に終始せず、相手や場に応じて適切に敬語を使うことの意義を実生活での場面とつなぐなどしながら生徒が実感できるようにするなど、指導を工夫する必要がある。(問題4三)
- 区分「読むこと」の「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを書く問題」の平均正答率は17.2%と全ての問題の中で最も低く、全国より3.3ポイント低い。また、無解答率が23.8%と高い。文章読解の授業において内容に対する自分の考えを書くことを課す、授業の振り返りにおいてキーワードを用いて自分の言葉で学習感想を書くなど、自分の考えを明確にしながら書く指導を多く取り入れることが大切である。(問題3四)

②

山田さんは、国語の授業で「言葉の使い方について」というテーマで自分の文章を書いていました。次は、山田さんが書いた「意見文」の下書きです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(ア)と(イ)は、設問の順序を記します。

「意見文」の下書き

□ SNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)などを活用し、インターネット上で文字で書いたやりとりをする機会が増えてきている。私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んでおくべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。

① ずいぶん

② 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなで作成された相手をしていたときのことである。「人の友達に對して、持ち合わせの場所までの友達を尋ねるつもりで「何で来るの」と書いたら、「どうして行ってはダメなの。」という返信が来て、はっとさせられたことがあった。友達には、私の言葉を「なぜ米るのね」という意味で捉えてしまったのだ。そのとき私が、友達に誤解を覚えないように書いていないか書いていれば、このようなことは起こらなかっただろう。

一 山田さんは、「意見文」の下書きを添削するために、①と②の問いに答えてほしい。その意図として、最も適切なものを、次の1から5の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 1 □ 既述で述べている意見の根拠となる事例をより詳しく説明しようとした。
- 2 □ 既述で述べている意見の根拠であることより詳細にしようとした。
- 3 □ 既述で述べている意見の根拠であることより簡潔にしようとした。
- 4 □ 既述の文で述べている意見の根拠であることより簡潔にしようとした。
- 5 □ 既述の文で述べている意見の根拠であることより詳細にしようとした。

二 「紹介」は、「意見」の「理由」とあり、山田さんが、「意見」の「理由」は、「②」をどのようにつけて書いたらよいかを、あなたも考えてほしい。あなたは、そのような「意見」の「理由」をどう書いたらよいか。次の条件1と条件2を満たすように書いてほしい。

条件1 「意見」の「理由」が、「②」をどのようにつけて書いたらよいかを、あなたも考えてほしい。

条件2 「意見」の「理由」の「理由」の「理由」を、あなたも考えてほしい。

(●問題3四 正答率17.2% 無解答率23.8%)

(●問題2一 正答率26.8%)

(4) 中学校数学

<集計結果>

・以下の集計値は、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

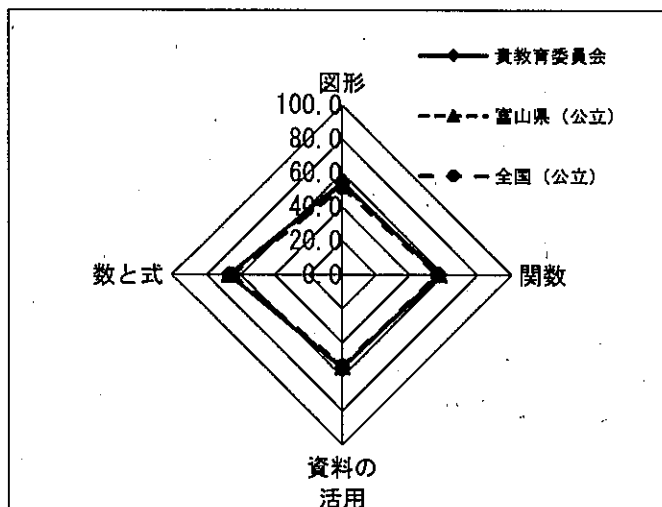
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
▲ 全国及び県を下回る領域・観点

※ ひとつの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	59	59	57.2

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の領域	数と式	5	○	66.8	66.9	64.9
	図形	4	◎	54.5	53.5	51.4
	関数	3	○	57.3	57.5	56.4
	資料の活用	4	◎	54.9	54.3	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	7	◎	43.0	42.5	41.1
	数学的な技能	3	○	79.6	80.0	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	○	67.3	66.8	65.6
問題形式	選択式	2	◎	53.1	52.6	52.4
	短答式	9	◎	72.5	72.2	70.5
	記述式	5	◎	37.0	36.6	35.0

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国と平均正答率を比較すると、1.8ポイント上回っている。また、全ての領域や評価の観点、問題形式で全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「図形」で3.1ポイント全国を上回っている。
- 問題形式のうち、「選択式」の問題の平均正答率は53.1%、「記述式」の問題の平均正答率は、37.0%と低い。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

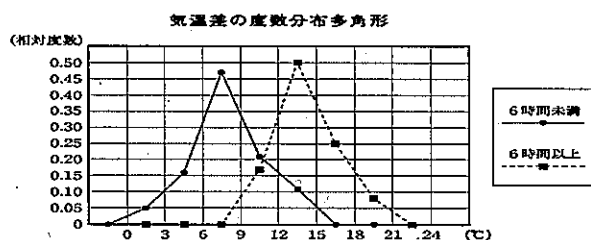


<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「数と式」の平均正答率が66.8%と4つの区分の中では最も高い。整式の加法と減法や一元一次方程式をつくることなど、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりするなど、基本的な計算力が身につけている。
- 区分「図形」の「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること」の理由を説明する問題では、平均正答率は全国と比べて6.0ポイント高い。与えられた条件を用いて、的確に説明する力が高まっている。(設問9(1))
- 区分「資料の活用」の「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にあると主張できる理由をグラフの特徴を基に説明する問題」では、平均正答率が9.3%と全ての問題の中で最も低く、無解答率が31.2%と高い。授業の中で日常生活を題材とした問題を取り上げ、それを解決するために計画を立てて必要なデータを収集し、ヒストグラムなどを作成したり、相対度数を求めたりしてデータの傾向を捉え、その結果を基に自分の考えを書き、各自の考えを友達と比較してさらに考えをよりよくしたりするなど、問題解決の一連の学習を指導することが重要である。(問8(3))
- 区分「関数」の「与えられた表やグラフを用いて、2分を測るために必要な砂の重さを求める方法を説明する問題」では、正答率が28.6%であった。伴って変わる二つの数量を的確に理解するためには、実験で得られたデータを座標平面や表に表し、表されたグラフや表のもつ性質を利用して、その関係を見い出す活動を取り入れることが効果的である。(問7(2))
- 問題形式の中で「記述式」の5つの問題のうち3つの問題は、無解答率が20%以上と高かった。授業の中で選択式や短答式で答えを導くだけでなく、順を追って自分の言葉で説明を学習ノートに書き、それを友達に説明するなど、解答の根拠を分かりやすく書いたり伝えたりする機会を多く設けることが大切である。

(3) 桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。



気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

(●設問8(3) 正答率9.3%、無解答率31.2%)

## 2 児童生徒質問紙調査の結果から

肯定的な回答：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの 全国比：令和3年度本市と全国を比較したもの R2本市比：R2の本市の値と比較したもの ◎は今年度新しく掲載した質問

自尊感情等 全国比：令和3年度本市と全国を比較したもの R2本市比：R2の本市の値と比較したもの ◎は今年度新しく掲載した質問

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R2本市比	考 察
1	自分には、よいところがあると思う	小	75.5%	-1.4	-3.2	1,2 「自分には、よいところがあると思う」生徒の割合は全国より高いが、児童の割合は全国より低く、昨年度より低下している。「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合は全国より低い。日頃から児童生徒の取り組む姿勢や努力の過程を認め励ますことで、自己有用感に裏付けられた自尊感情を高める。また、児童生徒が将来への見通しをもち、自己実現を図ることができるよう、キャリア教育等を充実させることが大切である。
		中	77.9%	+1.7	-1.3	
2	将来の夢や目標をもっている	小	76.8%	-3.5	-3.1	
		中	64.4%	-4.2	-2.7	
3	人の役に立つ人間になりたい	小	95.8%	+0.3	+0.9	
		中	94.8%	-0.2	-0.5	

### 規範意識

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R2本市比	考 察
4	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	小	96.5%	-0.3	+0.4	4 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合は全国、昨年度とほぼ同じである。今後も学級活動や道徳の授業を充実させ他者を尊重する心を育むとともに、相手の立場に立って物事をとらえる機会を創出することで、互いを認め合う気持ちを高める必要がある。
		中	96.3%	+0.4	0	

### 授業での活動

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R2本市比	考 察
5	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	小	79.6%	+0.8	-3.0	5,7 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」児童生徒の割合は昨年度よりも低下している。「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」児童生徒の割合は全国より高いが、昨年度よりも低下している。コロナ禍による、話し合い活動の制限などが影響したとも考えられる。本市が重点課題としている「主体性のある児童生徒の育成」を目指し、今後も一人一人の児童生徒が主体的に問題解決的な活動を繰り返す授業を構想する。さらに個の「見方・考え方」を深めるために、協働的な活動を取り入れた学習を目指していく必要がある。
		中	76.2%	-1.6	-9.8	
6	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	小	79.0%	+0.8	-4.0	
		中	81.9%	+0.9	-1.2	
7	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う	小	77.4%	+4.4	-3.7	
		中	82.5%	+12.3	-3.6	

## 家庭学習

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 2 本市比	考 察
8	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上勉強をしている	小	60.7%	-1.8	-1.7	8 「学校の授業時間以外に、普段1時間以上勉強している」児童生徒の割合は全国より低く、昨年度よりも低下した。家庭学習の習慣が定着していないことが示されている。 <u>児童生徒が家庭学習に積極的に取り組めるよう、授業者が授業で扱う内容と家庭で取り組む内容を意識するとともに、家庭との連携を積極的に行うことが大切である。</u>  10 「平日に30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICTを勉強のために使っている」児童生徒の割合は全国より高い。一人1台端末等を活用して学習に取り組む児童生徒が増えたと考えられる。今後は、 <u>学習における一人1台端末等の効果的な活用法を定着させることが大切である。</u>
		中	72.6%	-3.3	-5.4	
9	普段（月～金曜日）、家や図書館で30分以上読書をしている	小	40.6%	+3.2	-5.0	
		中	29.1%	+0.2	-0.7	
10	普段（月～金曜日）、30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っている。	小	44.9%	+3.5	+3.6	
		中	46.8%	+4.6	-4.4	

## 家庭での生活

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 2 本市比	考 察
11	朝食を毎日食べている	小	95.4%	+0.5	-1.1	13, 14 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」児童生徒の割合は全国、昨年度より高い。「テレビゲームをする時間が1時間より少ない」児童生徒の割合は全国より低く、生徒の割合は昨年度より低下した。コロナ禍により、テレビゲームをして過ごす時間が増えたことなどが考えられる。 <u>今後も継続して、児童生徒が自身の家庭での過ごし方を見直し課題を見つけるとともに、保護者と連携し、規則正しい生活習慣の確立、維持に向けて、取り組んでいくことが大切である。</u>
		中	94.4%	+1.6	+0.6	
12	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	小	78.1%	-3.1	-3.1	
		中	79.9%	+0.1	-2.2	
◎ 13	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている	小	77.0%	+6.9	+15.6	
		中	72.5%	+4.6	+6.0	
14	普段（月～金曜日）、テレビゲームをする時間が1時間より少ない	小	19.2%	-4.5	-6.1	
		中	16.5%	-3.2	-18.6	

## 地域や社会に対する興味・関心

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 2 本市比	考 察
15	今住んでいる地域の行事に参加している	小	75.0%	+16.9	-0.9	15, 16 「地域の行事に参加している」児童生徒の割合は全国より高い。「新聞を週1回以上読んでいる」児童生徒の割合は全国より高いが、昨年度より低下した。地域との結び付きの強さが表れており、 <u>今後も地域の中で育ち、社会の中で自分らしく生きていく姿勢を育てていく必要がある。また、NIEの先進的な取り組みを取り入れるなど、新聞が身近にある環境づくりに継続して取り組んでいくことが大切である。</u>
		中	53.4%	+9.7	+3.1	
16	新聞を週に1回以上読んでいる。	小	18.4%	+3.6	-2.6	
		中	14.7%	+4.3	-0.9	

### 3 学校質問紙調査の結果から

肯定的な回答：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等を足したもの 全国比：令和3年度本市と全国を比較したもの

H31比：本市令和3年度と平成31年度を比較したもの（H31年度に調査項目に無かった質問はH30年度と比較したもの） ◎は今年度新しく掲載した質問

#### 児童・生徒指導等

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H31比	考察
1	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	小	66.7%	-18.6	-1.5	1, 3 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導」について、肯定的な回答の割合は全国と比べ小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。日頃から児童生徒一人一人のよさや可能性を見つけるような取り組みを行うことが、児童生徒のキャリア発達を促すという意識が大切である。また、体験活動や働く人の姿や考え方にふれる機会を充実させるなど、特別活動を要としたキャリア教育の充実を図る必要がある。
		中	96.3%	-1.6	-3.7	
2	学習規律を維持した	小	95.4%	-1.5	+1.5	
		中	100%	+1.2	0	
3	児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行った	小	98.1%	-0.3	-1.9	
		中	100%	+1.4	±0	

#### 学校運営に関する状況

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	H31比	考察
◎ 4	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	小	84.9%	-8.7	-	4, 5 小・中学校ともに、「業務改善への取組」について肯定的な回答の割合は高く、全国と比べほぼ同じであり、継続した取り組みがなされていると言える。「PDCAサイクルの確立」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校は低く、中学校はやや低い。市の指導方針にある「R-G-PDCAサイクルの推進」や「PDCAサイクルとOODAの組み合わせ」により、よりいっそうの教育効果を図るカリキュラム・マネジメントに努める必要がある。
		中	88.9%	-3.8	-	
5	学校として業務改善に取り組んでいる	小	98.5%	+1	±0	
		中	100%	+3.6	±0	

#### 教職員の資質能力の向上

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	6はH29比 7はH31比	考察
6	児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	小	77.3%	-5.1	+3.1	6 「課題を設定し、解決する学習活動を学ぶ研修を行った」と解答した割合は、全国と比べ小学校は低く、中学校は高い。また、H29と比べ小学校はやや高く中学校はかなり高い。主体性のある児童生徒の育成を目指した授業改善に向け、問題解決的な学習に関する研修の充実が図られつつあると言える。今後も計画的な授業公開や自主的な互見授業の機会を設け、その成果や課題を教職員間で共有することが重要である。
		中	85.2%	+7.5	+26.0	
7	授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている	小	100%	+1.9	±0	
		中	81.4%	-12.5	-14.8	

## 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H31比	考 察
8	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	小	87.8%	2.5	+3.0	8,9,10 「課題の解決に向けて自分で考え、取り組む」ことについて、肯定的な解答の割合は、全国と比べ小学校ではやや高く、中学校ではかなり低い。小学校では、「学級活動における意志決定」「特別の教科道徳における指導の工夫」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ低い。児童生徒の主体的な学びを推進するために、 <u>各学校の課題をふまえた授業改善の視点を明確にし、児童生徒理解と教材研究に努める必要がある。</u>
		中	74.1%	-11.9	-3.7	
9	学級活動の授業を通して今努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている	小	86.4%	-6.9	-6.0	
		中	92.6%	+0.5	+7.4	
10	特別の教科道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている	小	93.9%	-3.1	+1.4	
		中	100%	+2.1	+3.7	

## 特別支援教育

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H31比	考 察
11	特別支援教育について理解し、授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った	小	83.3%	-11.1	-9.1	11 「特別支援教育」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校はかなり低く、中学校は低い。保護者や本人の教育的ニーズをとらえ合理的配慮を提供するなど、 <u>一人一人に応じた支援の在り方について共通理解を図る必要がある。また特別支援コーディネーターを中心とした校内支援体制を整備し、機能させることが重要である。</u>
		中	88.9%	-4.4	-3.7	

## 小学校教育と中学校教育の連携

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H31比	考 察
12	近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った	小	30.3%	-28.8	-12.1	12,13 「小・中学校の連携」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小・中学校ともかなり低い。小・中学校の連携の機会を確保するため、 <u>集合型の合同研修だけでなく、一人1台端末を活用した情報共有、Web会議システムを使った意見交換等多様な形態の工夫も考えられる。</u>
		中	44.4%	-20.6	±0	
13	近隣等の小(中)学校と、授業研究を行うなど合同して研修を行った	小	22.7%	-34.7	-13.6	
		中	40.7%	-24.4	-11.1	

## 調査結果の活用

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	H31比	考 察
◎ 14	平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	小	92.4%	+0.3	-	14 「調査結果の活用」について、肯定的な回答の割合は、全校と比べ小学校はほぼ同じで、中学校はかなり低い。調査の目的をふまえ、結果を分析・整理し、各学校の特徴や課題について校内研修会等で共通理解を図る必要がある。
		中	70.4%	-17.3	-	

## V 今後の取り組み

### 1 調査結果の取り扱い

市教育委員会では、平成19年度から令和3年度までに実施された11回の「悉皆調査」と2回の「抽出調査」において、現状に即した教育に努めるため調査結果を公表してきた。

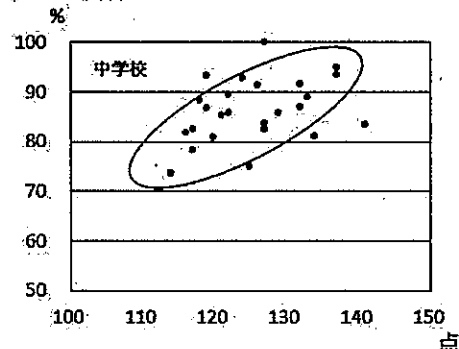
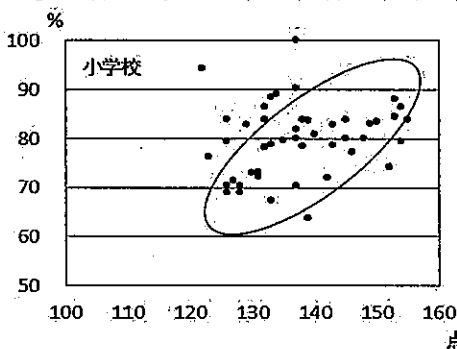
今年度の調査結果を分析することより富山市における課題を明らかにし、今後の授業改善に向けた指導のポイントについて提案する。また、各学校では、本調査の結果を詳細に分析し、学校全体の学力・学習状況の傾向や自校の課題について、全教職員で共有することが大切である。分析するに当たり、数値のみにとらわれず、児童生徒の個々の学力状況や日ごろの学習の様子と学力調査等の分析結果を結びつけ、多面的、総合的に課題を明らかにして、日常の授業を改善していくものとする。

### 2 教科に関する調査と児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の関連

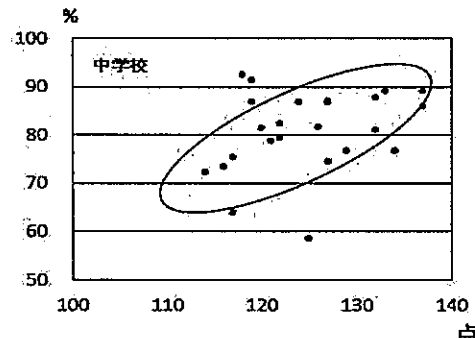
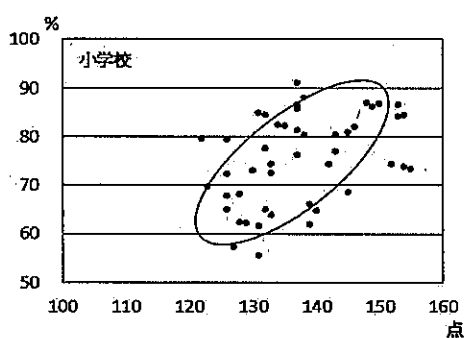
#### 1) 学校ごとの平均正答率の合計と児童生徒質問紙の回答状況との相関関係

##### ① 「問題解決的な学習」及び「非認知能力」に関すること

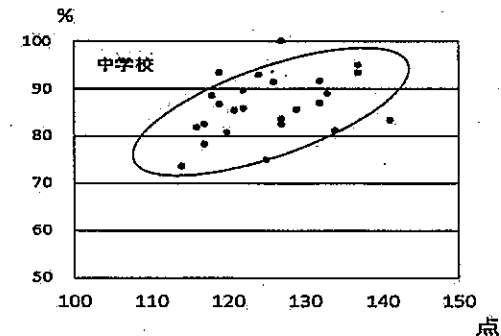
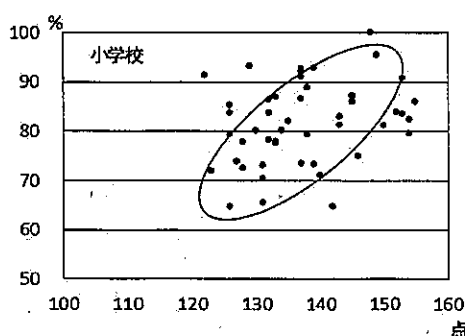
- 児童生徒質問紙 33(33) 「授業では課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



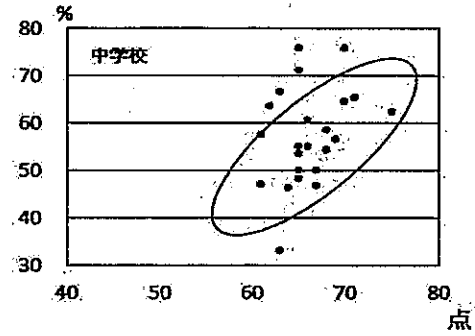
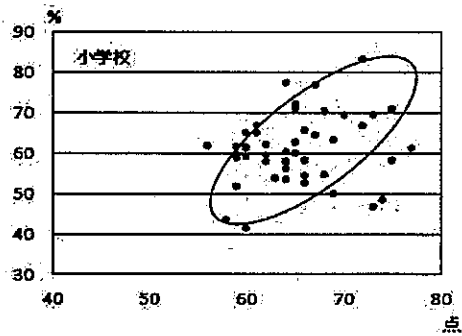
- 児童生徒質問紙 39(39) 「総合的な学習では、自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



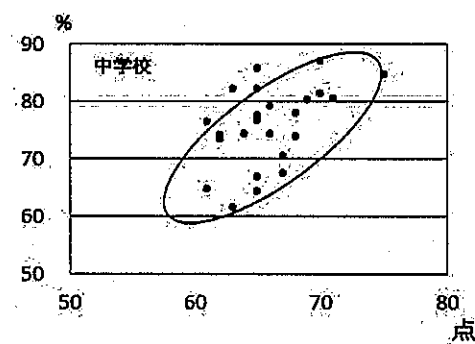
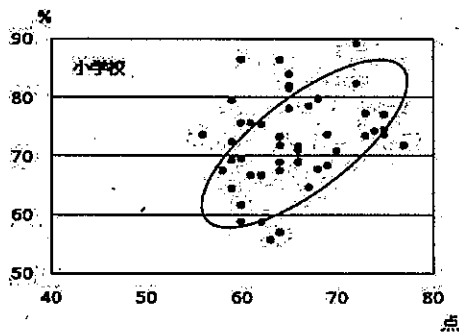
- 児童生徒質問紙 42(42) 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学校やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



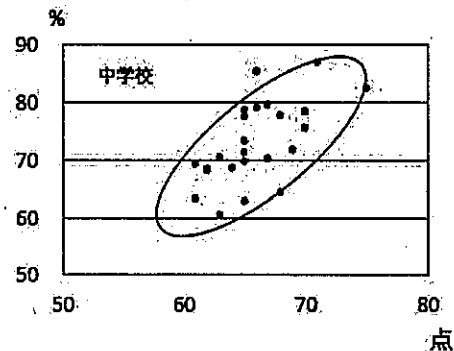
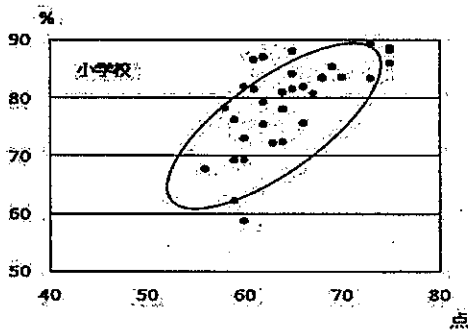
- 児童生徒質問紙 48(48) 「国語の授業では、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている」と答えた児童生徒の割合と国語の平均正答率の合計点との関係



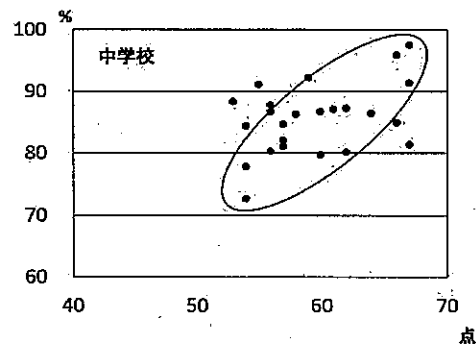
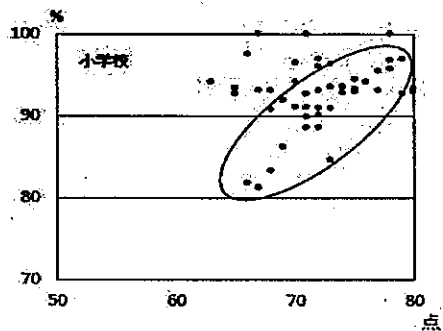
- 児童質問紙 49(49) 「国語の授業では、目的に応じて自分の考えと、それを支える理由との関係が分かるように書いたり、表現を工夫して書いたりしている」と答えた児童生徒の割合と国語の平均正答率の合計点との関係



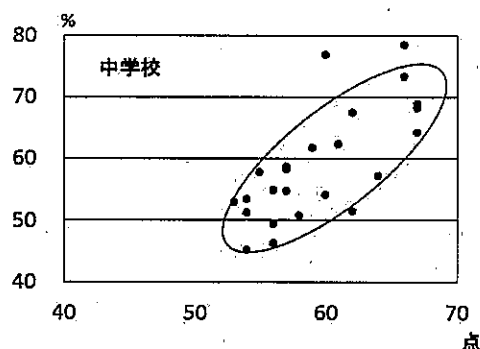
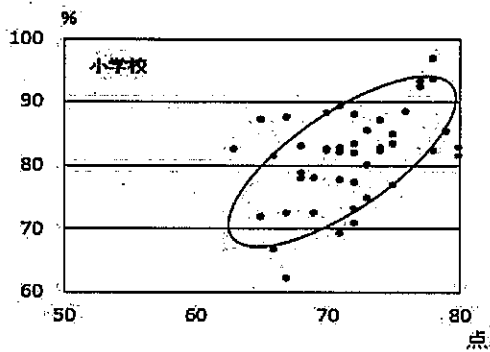
- 児童質問紙 51(51) 「国語の問題では、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた児童生徒の割合と国語の平均正答率の合計点との関係



- 児童質問紙 53(53) 「算数・数学の勉強は大切だ」と答えた児童生徒の割合と算数の平均正答率の合計点との関係

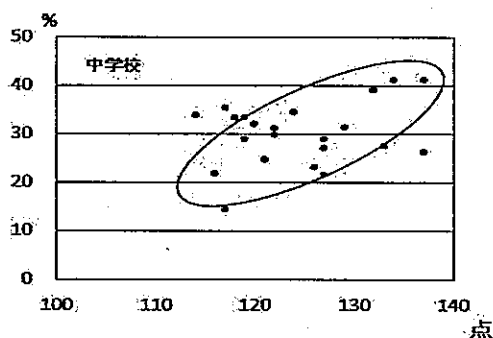
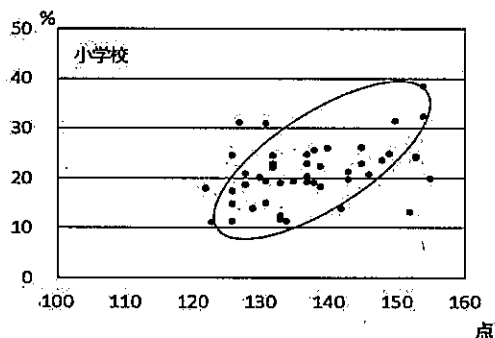


- 生徒質問紙 60 (60) 「算数・数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題を最後まで解答を書こうと努力した」と答えた生徒の割合と算数・数学の平均正答率の合計点との関係



② 「家庭学習」に関すること

- 児童生徒質問紙 18 (18) 「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上勉強している」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



<データの取り扱いについて>

- ※ 児童生徒質問紙の分析は、データの正確性を優先し、児童生徒数が20名以上の学校を対象とした。
- ※ 相関係数が0.2以上の場合は、図に楕円の○を書き入れ、相関の特徴を表している。
- ※ ( ) 内は、中学校の生徒質問紙の番号を表している。

以上の結果から、次の3点の内容が平均正答率に影響があると推察できた。

＜本市における授業改善に向けた指導の重点—令和3年度の全国学力・学習状況調査から—＞

- 1 「問題解決的な学習」の充実 —児童生徒が考えをもち互いの考えを交流する際の手立て及び書く力を向上するための手立て—
- 2 「非認知能力の育成」 —粘り強く取り組む力、仲間と協働する力を育む—
- 3 「家庭学習」の充実 —学校の授業と家庭学習のリンク—

これらの3点については、これまでも各学校において取り組んできたが、今後も引き続き授業改善に向けた工夫を考え、継続して取り組んでいく必要がある



2) 学校質問紙の各質問項目における平均正答率からみた2教科合計ポイントの平均以下に、平均正答率と相関関係があった児童生徒質問紙の項目に関連した学校質問紙の項目の一部を挙げた。

質問事項	回答			
	上段：平均正答率からみた2教科合計ポイント平均 下段：回答学校数	□よく行った	□どちらかといえば行った	□あまり行っていない ■全く行っていない ■その他・無回答
(7) 授業中の私語が少なく、落ち着いている	137点 49校	134 35	135 6	
(10) 学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持している	136 56	133 34		
(29) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	139 14	135 64	130 14	
(41) 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている	134 28	137 52	124 12	
(44) 特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている	136 24	134 65		
(52) 国語の指導として、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行った	139 19	136 58	126 16	
(53) 国語の指導として、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行った	138 16	136 63	124 14	
(57) 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った	134 6	137 60	130 26	
(59) 算数・数学の指導として、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童生徒がそのわけを理解できるように工夫していた	137 28	134 61		
(86) 家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした	135 42	135 46	134 5	

※回答学校数が5校未満の項目の数字は省く。 0% 20% 40% 60% 80% 100%

### 3 授業改善に向けた指導の重点

児童生徒質問紙においては、国語科や算数・数学科、総合的な学習の時間や道徳科に関して、

○「自分の考えをもち表現している児童生徒」

○「学習の大切さを理解し、粘り強く課題に取り組む児童生徒」

と平均正答率に正の相関があるという結果がみられた。

一方で、国語科の「文章を書く問題」、算数・数学科の「理由を記述する問題」など、記述式の問題において正答率が低く、無解答率が高かった。富山市におけるこの傾向は続いており、改善の必要がある。

また、富山市において家庭学習に2時間以上取り組む児童生徒の割合は、小学校においては6.1ポイント、中学校においては10.1ポイント全国平均を下回っている。しかしながら、国語科、算数・数学科の平均正答率が全国平均を上回っているのは、日常の学校における授業が充実しているものと推察される。

以上のことから、以下の3点が本市における授業改善に向けた指導の重点として挙げられる。

＜本市における授業改善に向けた指導の重点—令和3年度の全国学力・学習状況調査から—＞

- ① 「問題解決的な学習」の充実 —児童生徒が考えをもち互いの考えを交流する際の手立て及び書く力を向上するための手立て—
- ② 「非認知能力」の育成 —粘り強く取り組む力、仲間と協働する力を育む—
- ③ 「家庭学習」の充実 —学校の授業と家庭学習のリンク—

令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本市における授業改善に向けた指導の重点について、学校訪問研修会においてみられた教師の手立てや、学校に聞き取り調査を行った内容を基に、指導のポイントを挙げる。

- ① 「問題解決的な学習」の充実—児童生徒が考えをもち互いの考えを交流する際の手立て及び書く力を向上するための手立て—

(ア) 児童生徒が考えをもつための手立て

富山市指導方針の「自らの考えをもつ」において、次のようなポイントを示している。

ポイント1	学習課題に取り組む時間を確保する	ポイント2	課題に対する自分の考えを明確にさせる
自らの考えをもつ	① 情報を収集する		
	情報収集のキーワード 「既習内容や体験を基に」「スモールステップ」「言語化」「数値化」「視覚化」「見通しをもつ」「まずやってみる(なすことによって学ぶ)」		
	② 情報を整理・分析する		
整理・分析のキーワード 「着眼点(共通点、相違点、疑問、統合、削除、類型化)」「付箋の活用」「ヒントカード」「既習事項の提示物」「具体物」			

○「情報を収集する」

- ・「何について調べたらよいか」の具体的な視点を示す。
- ・調べる際の資料（文献、図表、インターネット URL など）を事前に提示するなど資料の精選を図る。
- ・ノートやワークシートを活用し、情報の収集過程の足跡を残す
- ・友達と相談する機会を設けたり考えを掲示したりして、参考にする。

○「情報を整理・分析する」

- ・「共通していることや異なっていることは何か」など分析の視点を、黒板や ICT 機器の画面に明示する。
- ・思考ツールを用意して分析の方法を提示する。
- ・友達と一緒に情報を整理・分析する時間を設けるなど学習形態を工夫する。

このように、情報を収集する際や情報を整理・分析する際に、自分の考えを構築する具体的な道筋をスモール・ステップで明確化して伝えることが必要である。

また、「今、どこまでできているのか」「何か困っていることはないか」「どうしていこうと思っているのか」など、教師が個別の声かけを丁寧に行い、自分の学習の状況をメタ認知し自覚的に安心して学習できる環境を創ることも大切である。

以上のように、児童生徒の実態を捉えて適切な支援を継続して行うことが、子どもの力を高めていくと考えられる。

(イ) 児童生徒が考えを表現する際の手立て

富山市指導方針の「互いの考えを交流する」において、次のようなポイントを示している。

**ポイント1** 場面に応じて、多様な学習形態を選択する。

○ 「一斉学習」「ペア・グループ学習」「個別学習」のメリットを踏まえながら、ねらいに応じて学習形態を工夫する。

**ポイント3** 子どもの反応を見逃さない

○ 話し手や聞き手となる子どもの表情や様子を把握するとともに、教師自身の立ち位置に気を配ったり、子どもの発言を繰り返さないようにしたりするなど、教師の言動に十分配慮する。

**ポイント2** 「話す姿・聞く姿」のきまりをつくる。

○ 安心して話せる雰囲気づくりのために、学習規律の定着を図る。

○ 発言している子どもと目をつないで聞こうとしている子どもを認める。

教師が「よい聞き手」になろう！

□ 子どもが友達の話に耳を傾けるのは、友達の考え方や発言に関心があるからです。目ごろから教師がまず「聞き手」の手本となることが大切です。

ポイント1において「場面に応じて、多様な学習形態を選択する」が挙げられている。授業において、ペア・グループ学習を取り入れることは児童生徒がもつ考えを広げ深めるという観点から有効である。しかし、ペア・グループ学習を取り入れるだけで、互いの考えを交流するようになるわけではない。

ペア・グループ学習をする際には、

- ・児童生徒が課題に対して考えをもっていること
- ・メンバーが何について考えるのか課題とゴールを共有すること
- ・問題解決に至るプロセスが明確化されペア・グループ学習について見通しをもっていること

などの事前指導が大切である。

また、自分の考えを伝えることが苦手な児童生徒に対しては、「ノートやワークシートなどに朱書きを入れて自信をもたせる」、「話型を伝え、慣れるに従い自分らしい話し方ができるようにする」などの支援が必要である。

さらに、ペア・グループ学習を終えて一斉学習に戻った際に、「どのような新たな考えが生まれたか」など、ペア・グループ学習を行ったことで、児童生徒がどのように考えを再構築したのかを明確にし、ペア・グループ学習に意味をもたせることが必要である。

#### (ウ) 「書く力」を向上するための手立て

小学校・中学校ともに国語科の「文章を書く問題」、算数・数学科の「理由を記述する問題」において正答率が低く、無解答率が高かった。富山市におけるこの傾向は続いており、改善の必要がある。児童生徒の「書く力」を向上させるためには、豊かな体験学習を設定するなど、児童生徒が書きたくなる気持ちを高める環境を整えることが必要である。

さらに、

- ①「問われていることは何か」や「書く際の条件はどんなことか」など、問題文の大切な情報に線を引くなどして、問題の意味を捉えられるようにする
- ②教科の用語を用いて学習のまとめを書く機会を設定する
- ③学習ノート、日記や生活ノートなどにおいて、課題を与えて書く機会を多く設け、書くことに対する心理的抵抗を低減させる

などの工夫が必要である。

#### ② 「非認知能力」の育成 ―粘り強く取り組む力、仲間と協働する力を育む―について

非認知能力は、幼児期後半から、「自分で決定したことを実行する」「成功体験や失敗体験を積み重ねる」「仲間と協働的に活動する」などを通して獲得されていくと言われる。教師は、これらの力を、日常の授業の中でも育てていくという意識をもつことが大切である。

例えば、ある特別支援学級の指導案には、次のような記述があった。

##### <教材について>

本題材は、ルールを守ってすごろくの駒を進めながら、与えられたミッションに友達と取り組む。ミッションに取り組む中で、一緒に楽しさを共有したり、トラブルを乗り越えたりすることで、児童生徒たちは友達とかかわるよさを感じたり、自分の気持ちを調整する力を付けたりできると考える。そして、「〇〇することができた」と自分のよさを感じ、今後よりよい自分を目指していくことを期待したい。

##### <教師の支援>

- ・友達を気遣う言動には賞賛の言葉をかけ、本人の自己肯定感を高める。
- ・自分の思い通りにならないことで腹を立てる子供には、本人の目当てに立ち返るように言葉をかけ、気持ちの調整ができるようにする。

この指導案にあるように、授業の中で非認知能力を育むためには、「学びにおける困難を乗り越える際の具体的な手立てが明確になっている」など、学習環境を整えることが大切だと考えられる。

日常の授業の中で非認知能力を育んでいる際に重要になってくるのが、以下に示す3点である。

- 授業の中で「育てたい児童生徒の態度や力」を具体化する
- 児童生徒の学びにおいて、教材のどのようなことが抵抗となるのかを予測し、その手立てを具体的に想定する
- 非認知能力が育まれたか評価を行う

非認知能力の評価は数値で表すことが難しいが、文章や写真等で児童生徒の学習過程をきめ細かく記録し、「意欲的に取り組んでいるか」「工夫する力がどこに見えたか」などを、授業研究における事後研修会などにおいて非認知能力の側面からも具体的に検討することが必要である。教員が評価の基準を共有し、話し合うことより、児童生徒の姿が客観的に捉えられると考えられる。

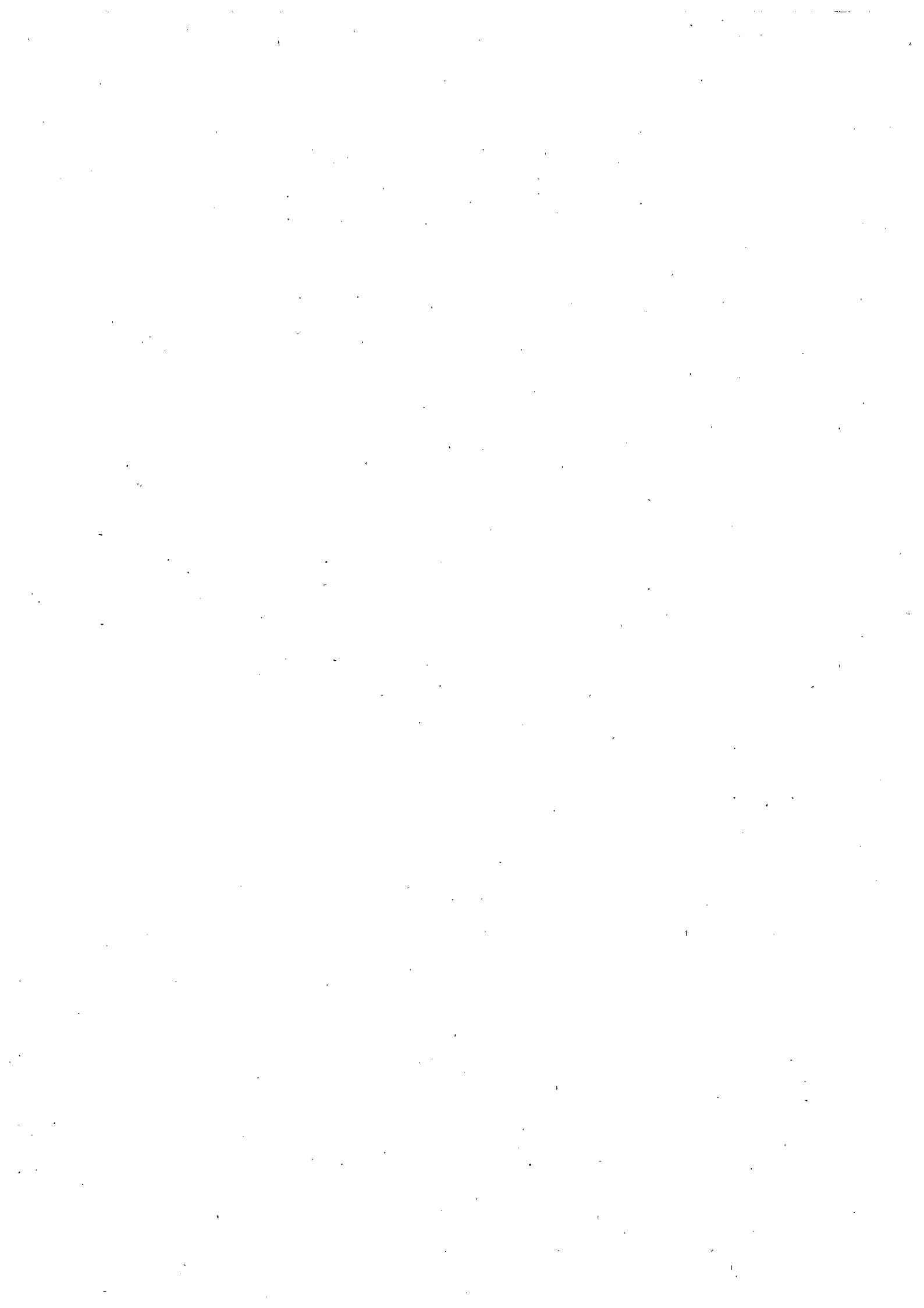
### ③ 「家庭学習」の充実 —学校の授業と家庭学習のリンク—

学校の授業と家庭学習に連続性をもたせることで、更なる学力の向上が期待できると考えられる。その際、家庭学習時間を増やせば学力が向上するというものではない。家庭学習が充実している学校では、次のような手立てがとられている。

- 授業のまとめを児童生徒自身が自分の言葉で書き、それを家で読み返す時間を取ることを宿題とし、学校の学びを想起させ自主学習につなげる（小学校）
- Chrome Book を活用して取り組みやすい宿題を出し、それを家庭学習の最初に取り組みよう伝え、家庭学習への心理的抵抗を少なくする（小学校）
- 授業の最後に、本時で分かったこと、未だ分かっていないことを整理して振り返らせ、その分からなかったことを解決することを家庭学習の課題とするなど、授業と家庭学習をつなぐようにする（中学校）

以上のような、工夫をすることにより、学ぶことの意義が味わうことができ、結果として学力の向上につながっていくと考えられる。各学校の実態に応じ、家庭学習の充実に向けての方策を考えていくことが必要である。

授業改善に向けた指導の重点を述べてきたが、平均正答率が高い学校に共通しているのは、研修会等で学校の課題を的確にとらえて解決策を教職員が共通理解し、継続して取り組んでいることである。このような学校の雰囲気づくりが児童生徒の学力向上につながると考えられる。



# 〈資料〉

- 1 全国学力・学習状況調査  
富山市と全国、県との平均正答率の比較
- 2 小学校6年生 設問別結果一覧
- 3 中学校3年生 設問別結果一覧
- 4 児童生徒質問紙調査
- 5 学校質問紙調査





全国学力・学習状況調査 富山市と全国、県との平均正答率の推移 (H19~R3)

・H19、20、21、25、26、27、28、29、30、31、R3：対象学年全員参加方式で実施。  
 ・H22、24：抽出方式で実施。(抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。)  
 ・H23：未実施。

※ 平成28年度より、整数値で公表(平成28年度からは、文部科学省から届く市・県の調査結果が整数値)

【小学校6年生】

	国語 A											国語 B											国語	
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R3
富山市	83.9	68.1	72.1	85.3	83.6	62.7	74.2	72.1	75	79	75	66.0	54.6	51.3	79.3	61.3	50.9	60.2	70.2	62	62	60	70	66
市一全国	2.2	2.7	2.2	1.8	2.0	0.0	1.3	2.1	2	4	4	4.0	4.1	0.8	1.5	5.7	1.5	4.7	4.8	4	4	5	6	1
市一県	0.0	-0.7	-0.3	0.2	0.1	-1.1	0.1	-0.8	0	1	1	0.0	0.3	-0.4	0.8	0.9	0.2	0.7	0.1	1	2	2	2	-1
富山県	83.9	68.8	72.4	85.1	83.5	63.8	74.1	72.9	75	78	74	66.0	54.3	51.7	78.5	60.4	50.7	59.5	70.1	61	60	58	68	67
県一全国	2.2	3.4	2.5	1.6	1.9	1.1	1.2	2.9	2	3	3	4.0	3.8	1.2	0.7	4.8	1.3	4.0	4.7	3	2	3	4	2
全国	81.7	65.4	69.9	83.5	81.6	62.7	72.9	70.0	73	75	71	62.0	50.5	50.5	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4	58	58	55	64	65

	算数 A											算数 B											算数	
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R3
富山市	86.3	76.1	80.4	77.0	77.0	79.7	81.7	79.0	81	84	68	67.1	55.7	56.6	51.4	62.0	60.8	62.8	47.7	53	49	57	70	73
市一全国	4.2	3.9	1.7	2.8	3.7	2.5	3.6	3.8	3	5	4	3.5	4.1	1.8	2.1	3.1	2.4	4.6	2.7	6	3	5	3	3
市一県	0.5	0.1	-0.1	0.9	0.5	0.0	0.7	0.5	0	2	2	0.7	0.6	-0.2	0.9	0.7	0.4	0.8	0.2	2	2	2	1	0
富山県	85.8	76.0	80.5	76.1	76.5	79.7	81.0	78.5	81	82	66	66.4	55.1	56.8	50.5	61.3	60.4	62.0	47.5	51	47	55	69	73
県一全国	3.7	3.8	1.8	1.9	3.2	2.5	2.9	3.3	3	3	2	2.8	3.5	2.0	1.2	2.4	2.0	3.8	2.5	4	1	3	2	3
全国	82.1	72.2	78.7	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2	78	79	64	63.6	51.6	54.8	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0	47	46	52	67	70

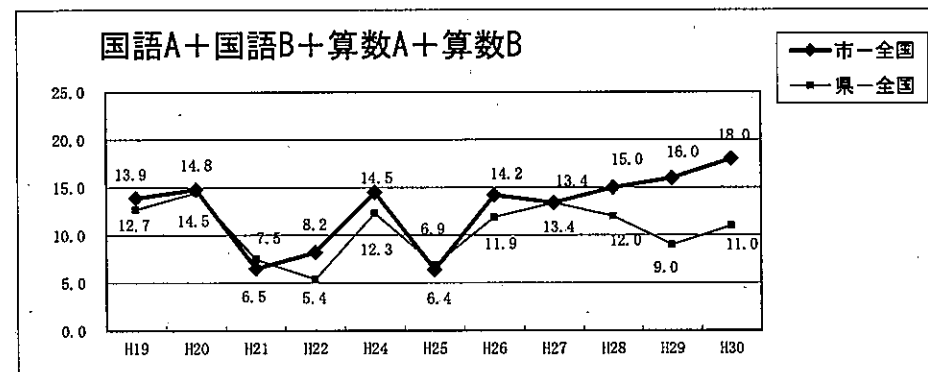
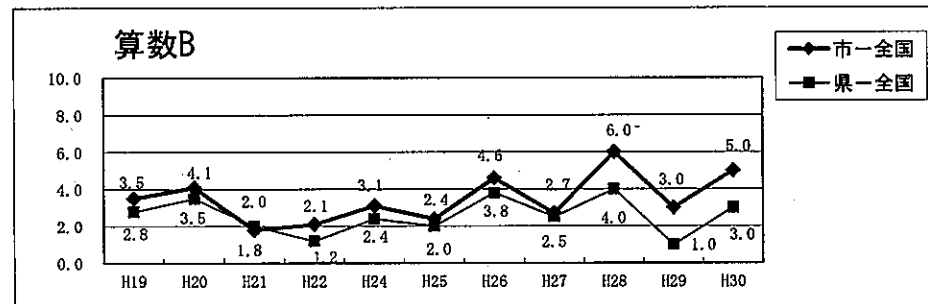
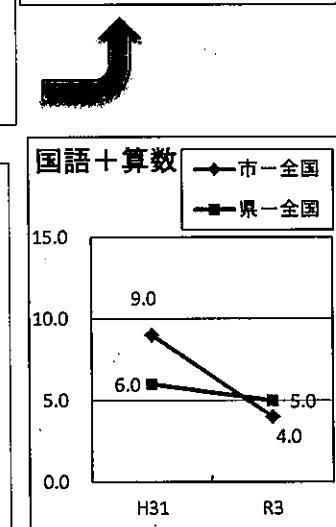
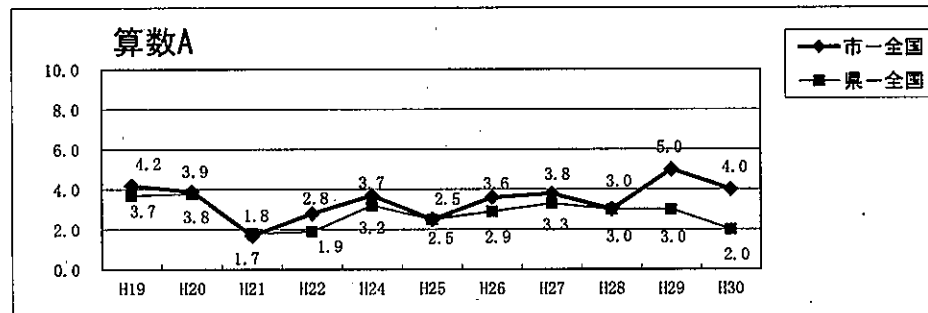
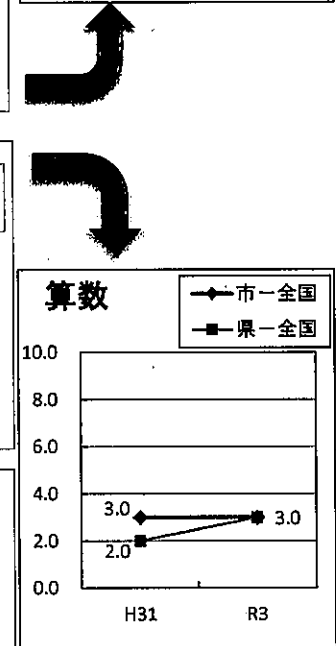
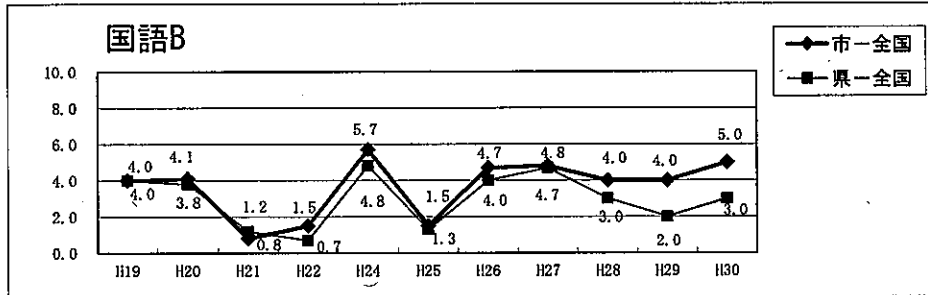
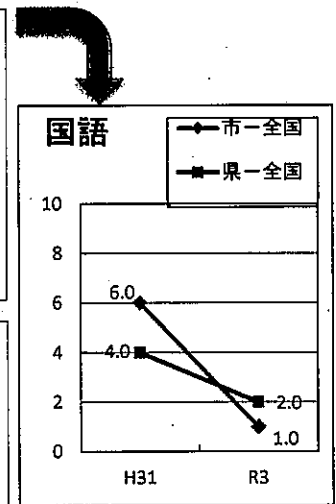
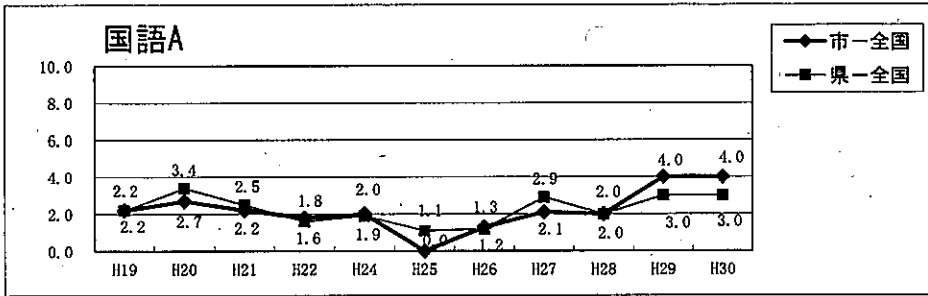
【中学校3年生】

	国語 A											国語 B											国語	
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R3
富山市	84.6	77.7	82.1	79.4	78.1	79.2	82.3	79.1	78	80	78	76.0	66.8	80.5	70.6	66.7	71.1	55.6	69.5	71	76	63	76	66
市一全国	3.0	4.1	5.1	4.3	3.0	2.8	2.9	3.3	2	3	2	4.0	5.9	6.0	5.3	3.4	3.7	4.6	3.7	4	4	2	3	1
市一県	-1.1	-0.3	0.3	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	0	0	0	-1.0	-0.3	0.4	1.0	-0.3	0.7	0.5	1.3	0	1	0	0	1
富山県	85.7	78.0	81.8	78.5	78.1	78.9	82.3	78.1	78	80	78	77.0	67.1	80.1	69.6	67.0	70.4	55.1	68.2	71	75	63	76	65
県一全国	4.1	4.4	4.8	3.4	3.0	2.5	2.9	2.3	2	3	2	5.0	6.2	5.6	4.3	3.7	3.0	4.1	2.4	4	3	2	3	0
全国	81.6	73.6	77.0	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8	76	77	76	72.0	60.9	74.5	65.3	63.3	67.4	51.0	65.8	67	72	61	73	65

	数学 A											数学 B											数学	
	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R3
富山市	75.6	68.2	68.3	70.3	66.6	66.0	71.6	68.2	65	68	71	64.7	53.6	64.1	51.6	55.4	44.3	63.6	46.3	49	51	51	65	59
市一全国	3.7	5.1	5.6	5.7	4.5	2.3	4.2	3.8	3	3	5	4.1	4.4	7.2	8.3	6.1	2.8	3.8	4.7	5	3	4	5	2
市一県	-1.6	-1.7	-0.1	1.6	0.1	0.2	0.5	1.1	0	0	1	-1.2	-1.6	0.5	2.1	0.8	0.4	0.0	1.8	0	1	0	0	0
富山県	77.2	69.9	68.4	68.7	66.5	65.8	71.1	67.1	65	68	70	65.9	55.2	63.6	49.5	54.6	43.9	63.6	44.5	49	50	51	65	59
県一全国	5.3	6.8	5.7	4.1	4.4	2.1	3.7	2.7	3	3	4	5.3	6.0	6.7	6.2	5.3	2.4	3.8	2.9	5	2	4	5	2
全国	71.9	63.1	62.7	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4	62	65	66	60.6	49.2	56.9	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6	44	48	47	60	57

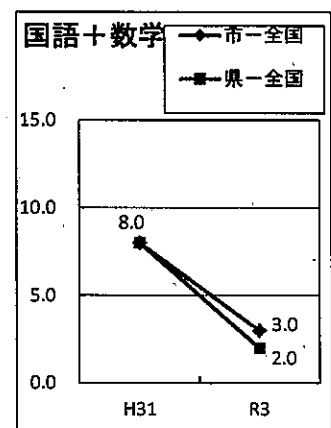
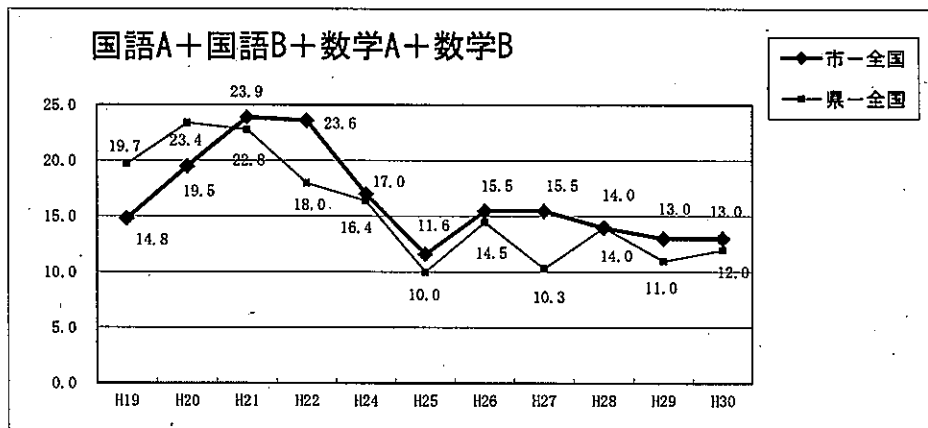
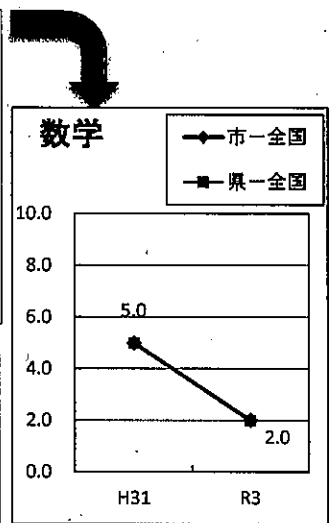
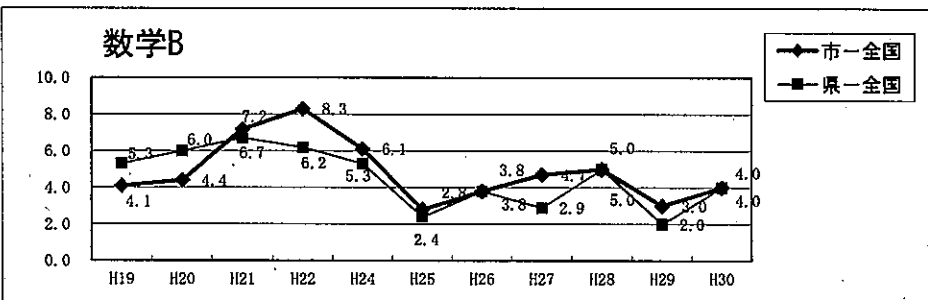
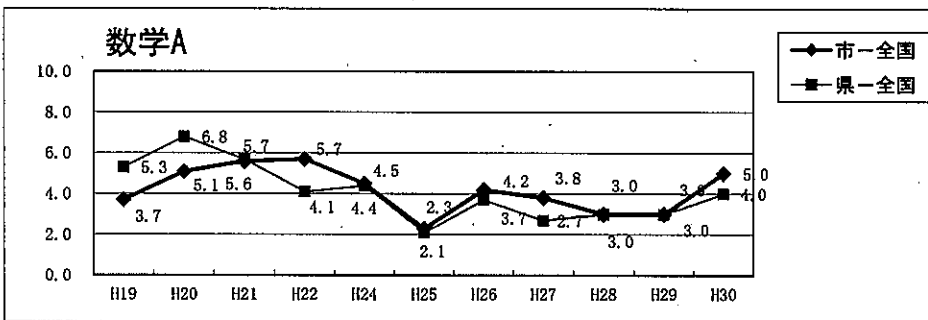
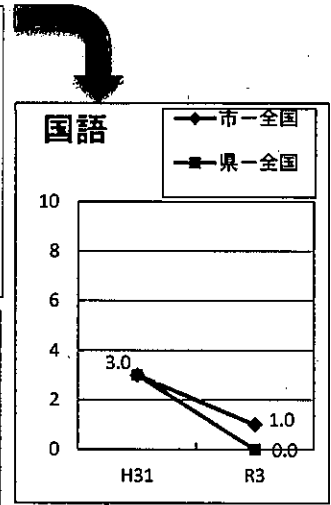
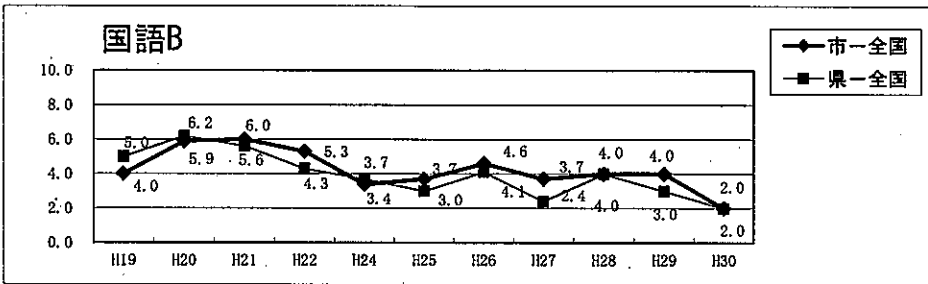
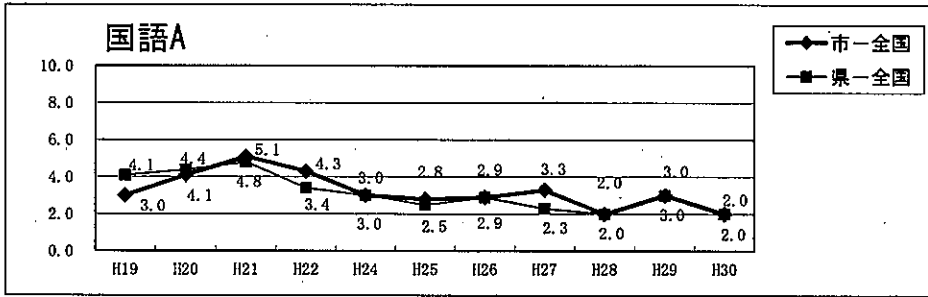
【小学校6年生】

※全国の平均正答率との差（％）



【中学校3年生】

※全国の平均正答率との差(%)



2 小学校6年生 設問別結果一覧

【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			正答率	誤答率	無解答率												
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式															
			する事項	する事項	（1）情報の扱い方に關する事項										（2）情報の扱い方に關する事項	（3）我が国の言語文化に關する事項										
1-1	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、「スピーチメモ」と「スピーチ」の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える			5・6イ													富山市	82.4	17.4	0.2	全国(公立)	77.5	22.2	0.3	
1-2	津田梅子についての「スピーチ」の練習で、「資料②」と「資料③」を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する			5・6ウ														富山市	78.3	21.4	0.3	全国(公立)	74.9	24.7	0.4
1-3	津田梅子についての「スピーチ」の練習の口の部分で話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話す			5・6ウ														富山市	82.6	17.1	0.3	全国(公立)	81	18.6	0.4
2-1	面ファスナーに関する「資料」の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事項を把握する				5・6ア													富山市	80.7	18.9	0.4	全国(公立)	77.6	22	0.4
2-2	面ファスナーに関する「資料」の文章の中の「より」と同じ使い方をしているものとして適切なものを選択する	思考に関する語句の使い方や理解し、話や文章の中で使う	5・6オ																富山市	90.5	9.3	0.2	全国(公立)	87.5	12.2	0.3
2-3	面ファスナーに関する「資料」を読み、メソッドは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける			5・6ウ														富山市	41.3	55.2	3.5	全国(公立)	34.4	61.5	4.1
2-4	面ファスナーに関する「資料」を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を認識し、中心となる語や文を見付けて要約する				3・4ウ													富山市	35.7	59.6	4.7	全国(公立)	29.7	64.8	5.5
3-1	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える			5・6イ														富山市	65.5	31.6	2.9	全国(公立)	64.8	33.1	2.1
3-2	丸山さんの【文章の下書き】の…節を「西田さんの話」を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する			5・6ウ														富山市	58.8	30.9	10.3	全国(公立)	56.6	33.8	9.6
3-3(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部アを、漢字を使って書き直す(ころがっている)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6エ																富山市	77	13.5	9.5	全国(公立)	78.3	12.9	8.8
3-3(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部ウを、漢字を使って書き直す(2み重ね)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6エ																富山市	45.1	38.3	16.6	全国(公立)	54.4	31.2	14.4

【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等						評価の観点			問題形式			<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span>□ 正答率</span> <span>■ 誤答率</span> <span>■ 無解答率</span> </div>								
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式									
			(1) 情報の扱い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと															
3三(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部を、漢字を使って書き直す(げんいん)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6												<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>81.8</td> <td>12.3</td> <td>5.9</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>79</td> <td>14.4</td> <td>6.6</td> </tr> </table>	富山市	81.8	12.3	5.9	全国(公立)	79	14.4	6.6
富山市	81.8	12.3	5.9																				
全国(公立)	79	14.4	6.6																				
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部で、～部「残されています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉える	3・4												<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>64.7</td> <td>30.6</td> <td>4.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>67</td> <td>29.2</td> <td>3.8</td> </tr> </table>	富山市	64.7	30.6	4.7	全国(公立)	67	29.2	3.8
富山市	64.7	30.6	4.7																				
全国(公立)	67	29.2	3.8																				
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部で、～部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える	3・4												<table border="1"> <tr> <td>富山市</td> <td>42.7</td> <td>52.3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>43.6</td> <td>52.3</td> <td>4.1</td> </tr> </table>	富山市	42.7	52.3	5	全国(公立)	43.6	52.3	4.1
富山市	42.7	52.3	5																				
全国(公立)	43.6	52.3	4.1																				

【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣意	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率	誤答率	無解答率		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 量と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式					
1 (1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数量を選び、その求め方と答えを記述できる	1(2) 7(4) 3(2) 7(4)		2(1) 7(7)													<p>富山市: 正答率 67.7%, 誤答率 30.8%, 無解答率 1.5%</p> <p>全国(公立): 正答率 62.5%, 誤答率 35.8%, 無解答率 1.7%</p>
1 (2)	500mを歩くのに7分かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる				5(1) イ(7) 5(2) イ(7)												<p>富山市: 正答率 87.8%, 誤答率 10.8%, 無解答率 1.4%</p> <p>全国(公立): 正答率 86.7%, 誤答率 11.6%, 無解答率 1.7%</p>
1 (3)	Aとイの二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と算の意味を理解している					5(2) 7(7)											<p>富山市: 正答率 54.9%, 誤答率 43.8%, 無解答率 1.3%</p> <p>全国(公立): 正答率 55.8%, 誤答率 42.3%, 無解答率 1.4%</p>
1 (4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができる			3(2) 7(4)													<p>富山市: 正答率 90.5%, 誤答率 9.2%, 無解答率 0.3%</p> <p>全国(公立): 正答率 89.2%, 誤答率 10.1%, 無解答率 0.7%</p>
1 (5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に直すことができる				5(2) 7(7)												<p>富山市: 正答率 87.1%, 誤答率 12.1%, 無解答率 0.8%</p> <p>全国(公立): 正答率 85.1%, 誤答率 13.4%, 無解答率 1.5%</p>
2 (1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している		5(3) 7(7)														<p>富山市: 正答率 60.9%, 誤答率 33.0%, 無解答率 1.1%</p> <p>全国(公立): 正答率 55.1%, 誤答率 43.3%, 無解答率 1.6%</p>
2 (2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比較することができる		5(3) 7(7)	1(1) 7(4)													<p>富山市: 正答率 71.4%, 誤答率 27.9%, 無解答率 0.7%</p> <p>全国(公立): 正答率 72.5%, 誤答率 26.5%, 無解答率 1.0%</p>
2 (3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる		5(3) 7(7)														<p>富山市: 正答率 51.5%, 誤答率 45.0%, 無解答率 3.5%</p> <p>全国(公立): 正答率 46.0%, 誤答率 49.4%, 無解答率 4.6%</p>
3 (1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量を読み取ることができる					3(1) 7(4)											<p>富山市: 正答率 96.2%, 誤答率 3.6%, 無解答率 0.2%</p> <p>全国(公立): 正答率 95.8%, 誤答率 3.8%, 無解答率 0.4%</p>
3 (2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる					3(1) 7(4)											<p>富山市: 正答率 92.7%, 誤答率 7.0%, 無解答率 0.3%</p> <p>全国(公立): 正答率 90.7%, 誤答率 8.9%, 無解答率 0.4%</p>

【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率	誤答率	無解答率		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式				記述式	
3 (3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表のどこに入れることができる					4(1) 7(7)	○			○						<p>正答率 72.4% (Toyama City), 67.5% (National Public Schools) 誤答率 26.5% (Toyama City), 30.8% (National Public Schools) 無解答率 1.1% (Toyama City), 1.7% (National Public Schools)</p>
3 (4)	棒グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	棒グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる					5(1) 7(7)	○			○						<p>正答率 56.4% (Toyama City), 52.0% (National Public Schools) 誤答率 35.8% (Toyama City), 37.7% (National Public Schools) 無解答率 7.8% (Toyama City), 10.3% (National Public Schools)</p>
3 (5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を比べるために、適切なデータを選ぶ	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる					5(1) 7(4)	○			○						<p>正答率 77.5% (Toyama City), 73.9% (National Public Schools) 誤答率 21.6% (Toyama City), 24.3% (National Public Schools) 無解答率 0.9% (Toyama City), 1.3% (National Public Schools)</p>
4 (1)	余りのある除法の商と余りを画に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる					3(4) 7(7) イ(イ)	○			○						<p>正答率 84.8% (Toyama City), 83.0% (National Public Schools) 誤答率 14.1% (Toyama City), 15.3% (National Public Schools) 無解答率 1.1% (Toyama City), 1.7% (National Public Schools)</p>
4 (2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるとき一人分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を探えて除法の式に表し、計算をすることができる					4(4) 7(2)	○			○						<p>正答率 58.0% (Toyama City), 55.5% (National Public Schools) 誤答率 40.6% (Toyama City), 42.5% (National Public Schools) 無解答率 1.4% (Toyama City), 2.0% (National Public Schools)</p>
4 (3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数量の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量を示された小数に当たる理由を記述できる					4(4) 7(7)	○			○						<p>正答率 52.7% (Toyama City), 51.5% (National Public Schools) 誤答率 37.5% (Toyama City), 38.2% (National Public Schools) 無解答率 9.8% (Toyama City), 10.3% (National Public Schools)</p>

3 中学校3年生 設問別結果一覧

【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率	誤答率	無解答率	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	言語への関心・態度・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	国語に関する知識・技能	選択式	短答式				記述式
1 一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1 オ											富山市	89.6	10.1	0.3
														全国(公立)	89.7	10.1	0.2
1 二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	1 エ											富山市	92.8	6.9	0.3
														全国(公立)	92.5	7.3	0.2
1 三	参加者の誰がどのようなことについて発言するといいかと、そのように考えた理由を書く	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1 オ											富山市	60.5	35.9	3.6
														全国(公立)	57.1	35.5	3.4
2 一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	2 エ											富山市	26.8	72.9	0.3
														全国(公立)	24.8	72.9	0.3
2 二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	2 オ											富山市	74.0	18.1	7.9
														全国(公立)	74.5	17.0	3.5
3 一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	1 ア											富山市	46.5	53.2	0.3
														全国(公立)	43.7	55.9	0.4
3 二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	1 ウ											富山市	61.6	38.0	0.4
														全国(公立)	58.7	40.9	0.4
3 三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	2 イ											富山市	72.5	20.2	6.3
														全国(公立)	71.0	20.7	7.3
3 四	「香紫」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	1 オ											富山市	17.2	59.0	8
														全国(公立)	20.5	55.4	1
4 一 ①	漢字を読む(伸ばして)	文脈に即して漢字を正しく読む	2 (1)ウ (7)											富山市	97.5	0	1.7
														全国(公立)	97.5	1	1.5



【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			<input type="checkbox"/> 正答率 <input type="checkbox"/> 誤答率 <input type="checkbox"/> 無解答率	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	国語への関心・意欲・態度	選択式	記述式	記述式		
4 一 ②	漢字を読む（詳細）	文脈に即して漢字を正しく読む			2 (1)ウ (7)							○	○		富山市 91.2 5.8 2.0 全国(公立) 88.8 8.9 2.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4 二	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する			1 (1)イ (6)							○	○		富山市 73.2 25.7 1.5 全国(公立) 74.0 24.9 1.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4 三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う			2 (1)イ (7)							○	○		富山市 43.5 54.5 2.0 全国(公立) 40.3 58.0 1.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4 四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	2 ウ									○	○	○	富山市 75.1 25.9 9.4 全国(公立) 71.9 33.4 9.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率	誤答率	無解答率	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の活用	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式				
1	$(5x+6y) - (3x-2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2(1)ア											富山市	76.4	22.8	0.8
														全国(公立)	77.1	22.1	0.8
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることのできる	1(3)ウ											富山市	76.4	19.4	6.2
														全国(公立)	71.3	21.1	7.6
3	中心角60°の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している	1(2)ウ											富山市	68.7	30.9	0.4
														全国(公立)	68.1	31.6	0.3
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	1(1)ア											富山市	48.8	41.8	9.4
														全国(公立)	48.0	42.7	9.3
5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる	1(1)ア											富山市	85.9	13.3	0.8
														全国(公立)	84.5	14.5	1.0
6(1)	四角で囲んだ4つの数が1, 2, 1, 3, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1)イ,ウ											富山市	84.5	12.4	3.1
														全国(公立)	83.9	12.6	3.5
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1)イ,ウ											富山市	65.0	20.4	14.6
														全国(公立)	61.8	22.8	15.4
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	2(1)イ,ウ											富山市	31.8	40.2	28.0
														全国(公立)	30.3	39.8	29.9
7(1)	与えられた表やグラフから、秒の重さが75gのときに、秒が落ちるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	1(1)ウ											富山市	94.4	3.8	1.8
														全国(公立)	93.5	4.1	2.0
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な秒の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	1(1)エ,オ											富山市	28.6	43.4	23.0
														全国(公立)	27.7	47.6	24.7

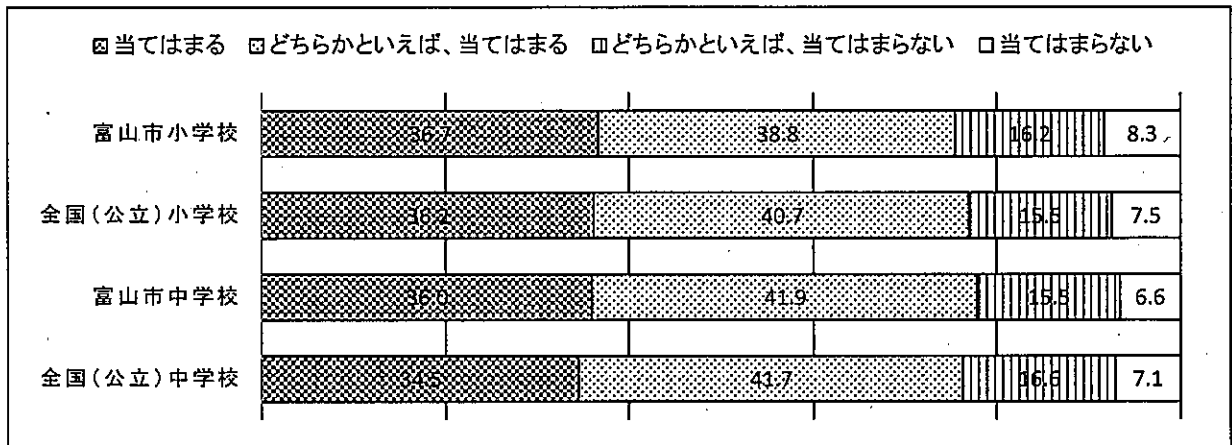
【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣意	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		正答率	誤答率	無解答率		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方の	数学的な技能	問題や図形などについての知識・理解	選択式	短答式				記述式	
8 (1)	気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる				1(1)ア											<p>Toyama City: 86.8% (Correct), 10.1% (Error), 3.1% (No Answer) National Public Schools: 83.0% (Correct), 12.8% (Error), 4.2% (No Answer)</p>
8 (2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性と意味を理解している				1(1)ア											<p>Toyama City: 37.5% (Correct), 61.8% (Error), 0.7% (No Answer) National Public Schools: 36.8% (Correct), 62.2% (Error), 1.0% (No Answer)</p>
8 (3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる				1(1)イ											<p>Toyama City: 9.3% (Correct), 59.5% (Error), 31.2% (No Answer) National Public Schools: 11.1% (Correct), 56.7% (Error), 32.2% (No Answer)</p>
9 (1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることと理由を説明することができる		2(2)イ、ウ													<p>Toyama City: 50.3% (Correct), 45.4% (Error), 4.3% (No Answer) National Public Schools: 44.3% (Correct), 52.1% (Error), 3.6% (No Answer)</p>
9 (2)	鈍角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	鈍角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している		2(1)ア													<p>Toyama City: 67.4% (Correct), 20.1% (Error), 12.5% (No Answer) National Public Schools: 64.3% (Correct), 20.5% (Error), 14.2% (No Answer)</p>
9 (3)	∠ARGや∠ASGの大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することができる		2(1)ア													<p>Toyama City: 31.8% (Correct), 42.3% (Error), 25.9% (No Answer) National Public Schools: 28.8% (Correct), 42.5% (Error), 28.7% (No Answer)</p>

4 児童生徒質問調査 (★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)

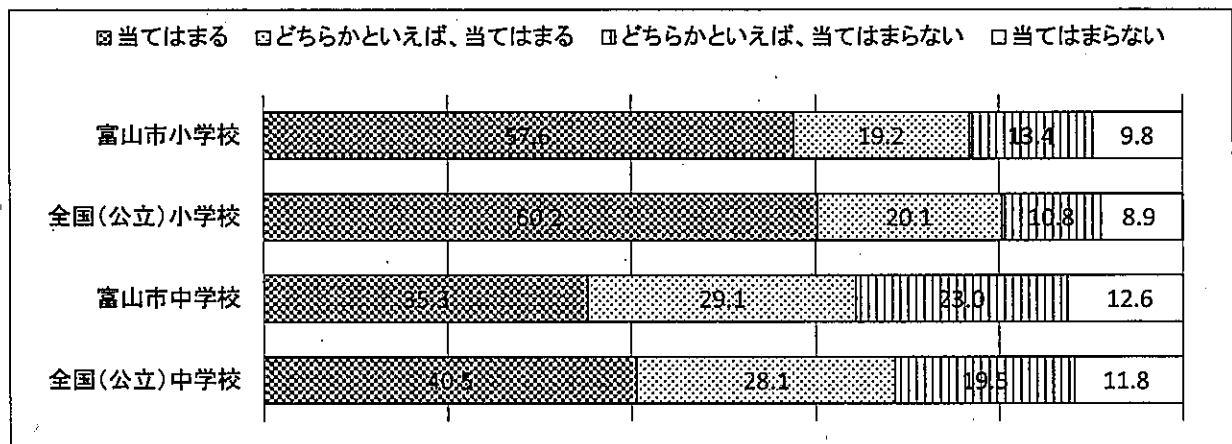
【自尊感情】

1 自分には、よいところがあると思いますか。



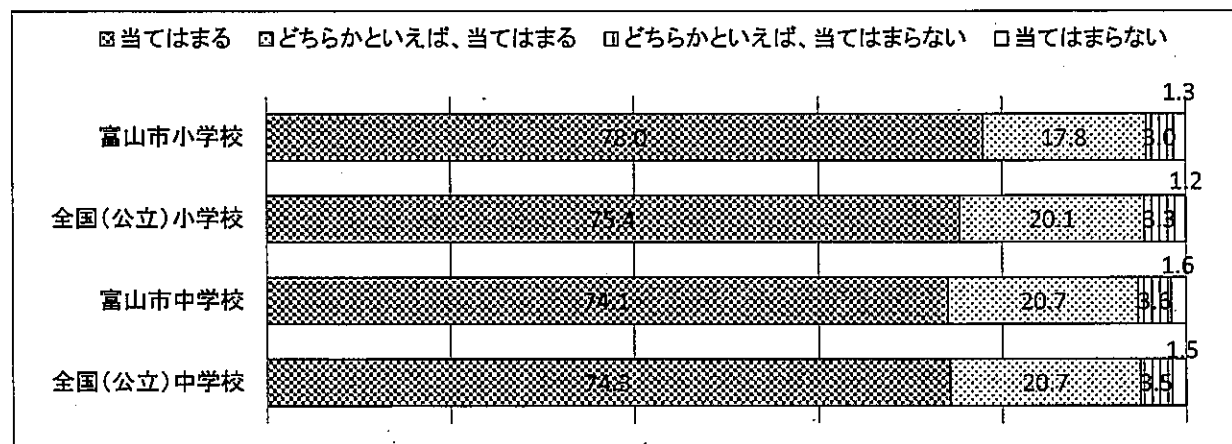
※ 「自分にはよいところがあると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童の割合は全国より低く、生徒の割合は全国より高い。

2 将来の夢や目標を持っていますか。



※ 「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」児童生徒の割合は全国より低い。

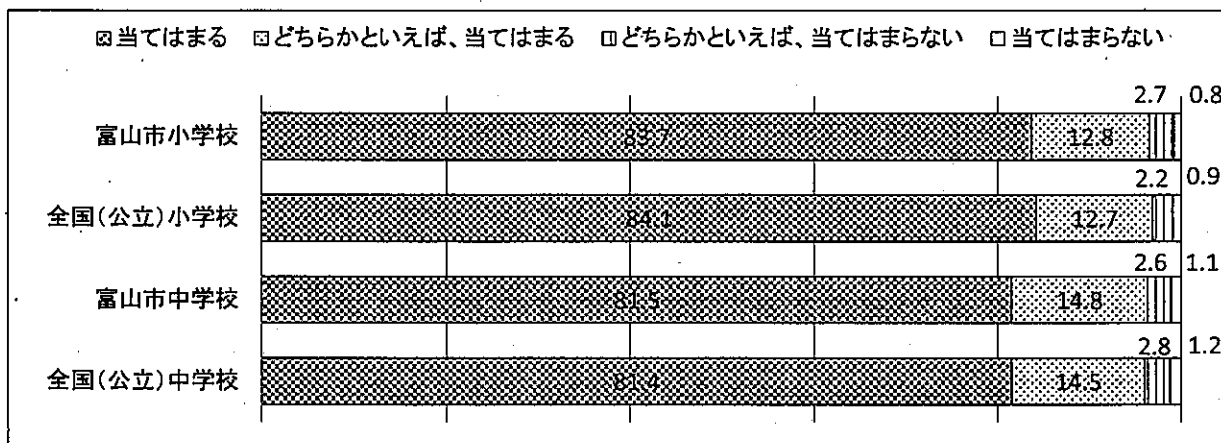
3 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



※ 「人の役に立つ人間になりたいと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

【規範意識】

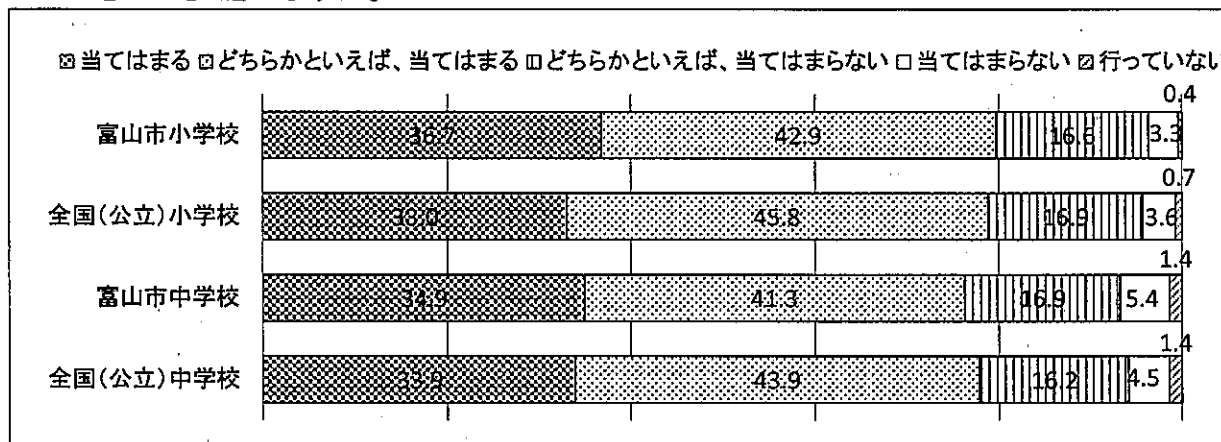
4 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



※ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。

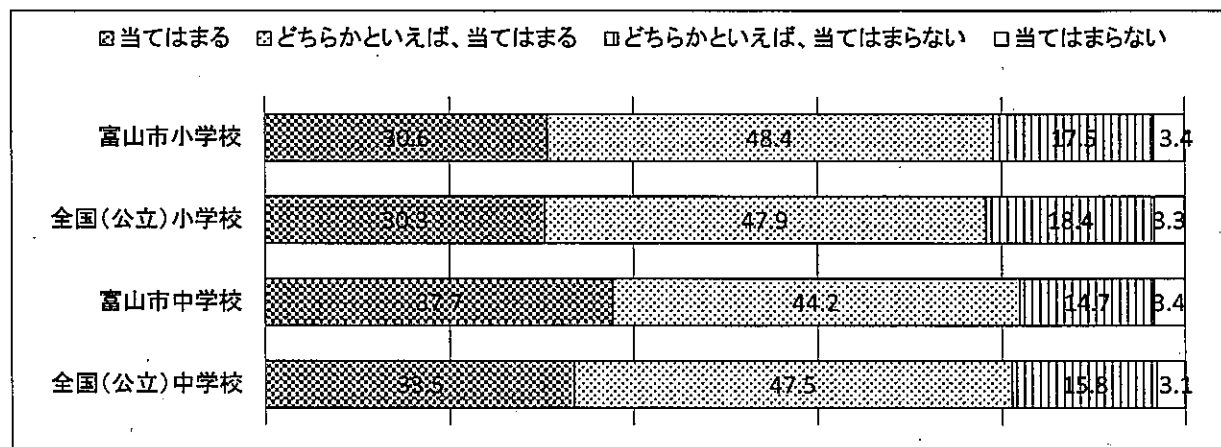
【授業での活動】

5 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



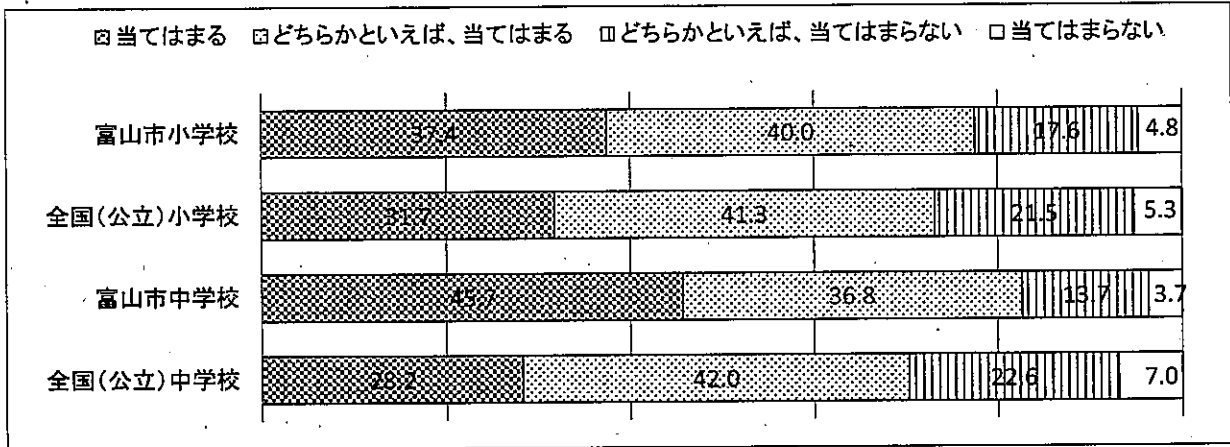
※ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う」「どちらかといえば思う」児童の割合は全国より高いが、生徒の割合は全国より低い。

6 授業では、課題の解決へ向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



※ 「授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は、全国よりやや高い。

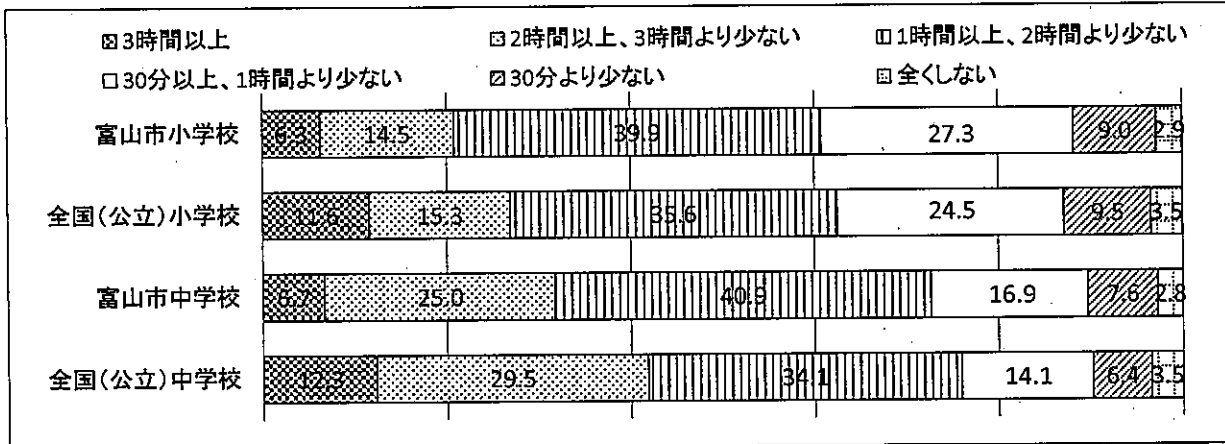
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。



※ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国より高く、生徒の割合は全国よりかなり高い。

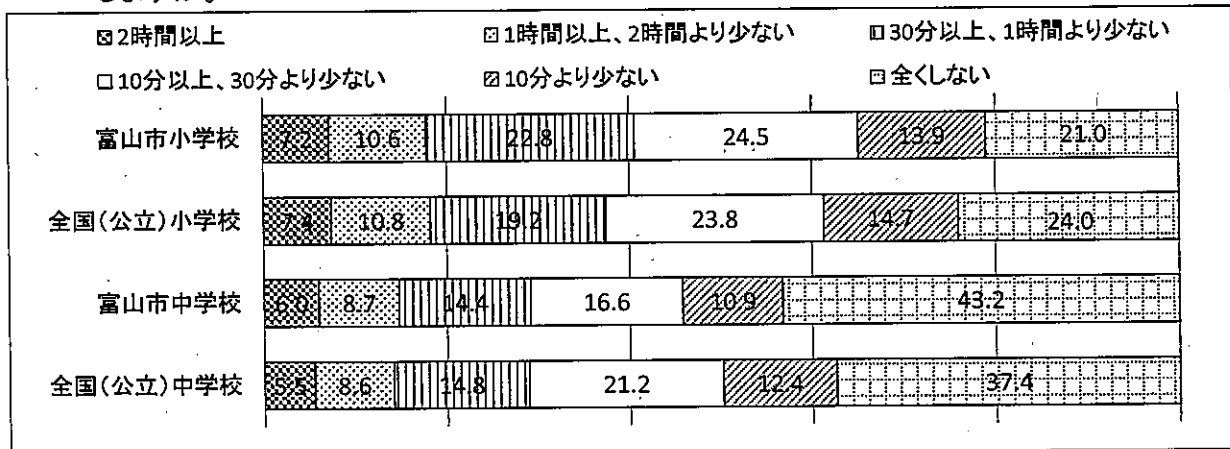
### 【家庭学習】

8 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



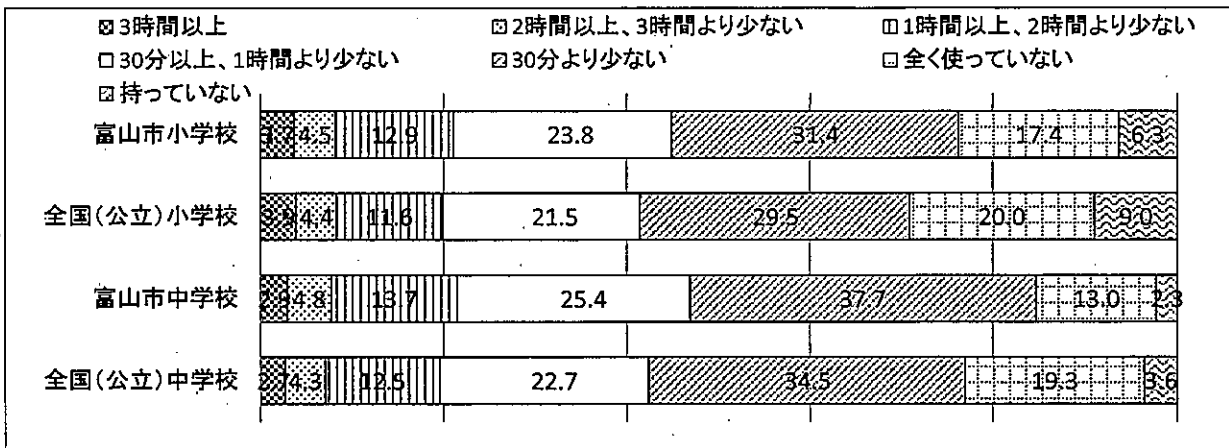
※ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1時間以上勉強をしている」児童生徒の割合は全国より低い。

9 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



※ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、家や図書館で30分以上読書をしている」児童生徒の割合は全国より高い。

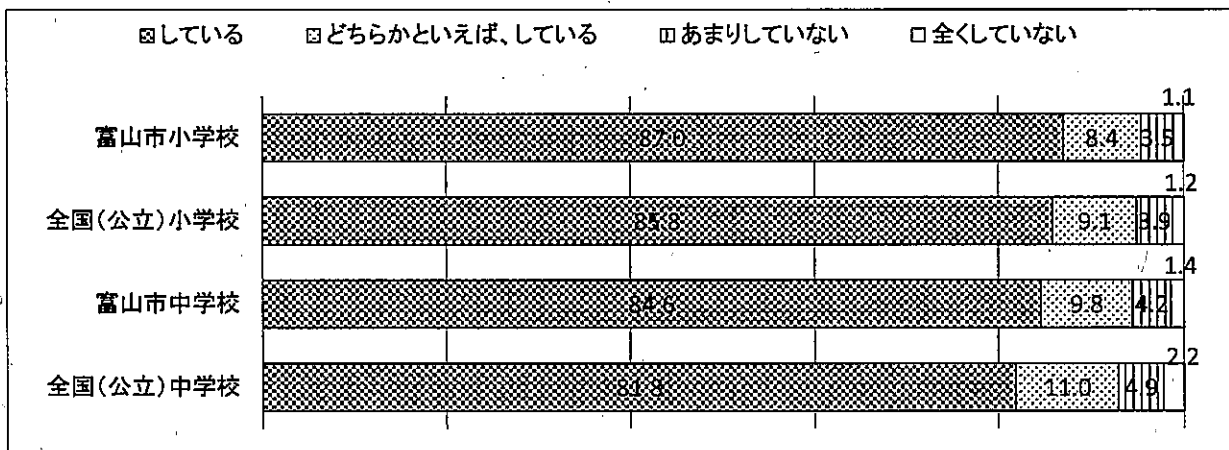
10 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っていますか。



※ 「普段(月～金曜日)、30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っている」児童生徒の割合は全国より高い。

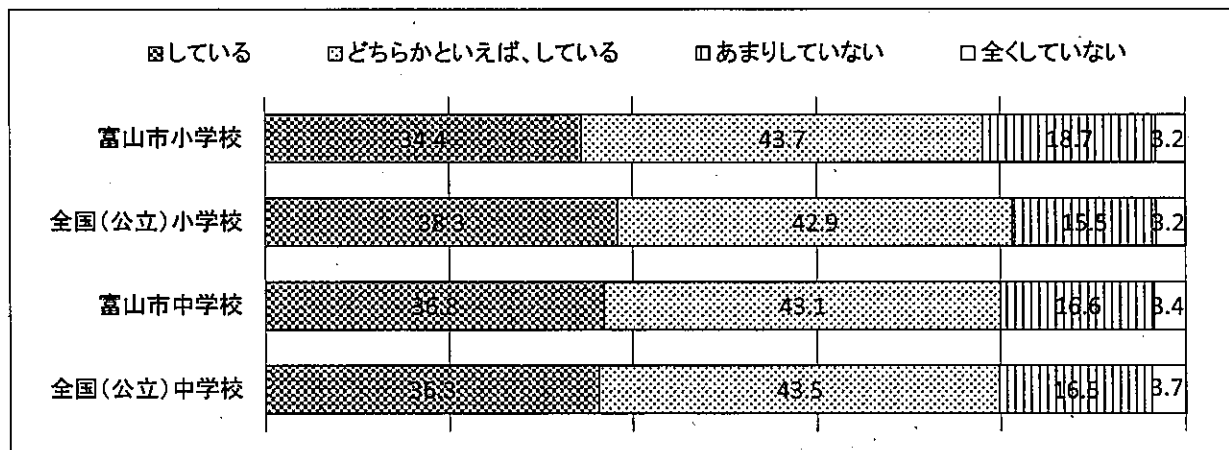
【家庭での生活】

11 朝食を毎日食べていますか。



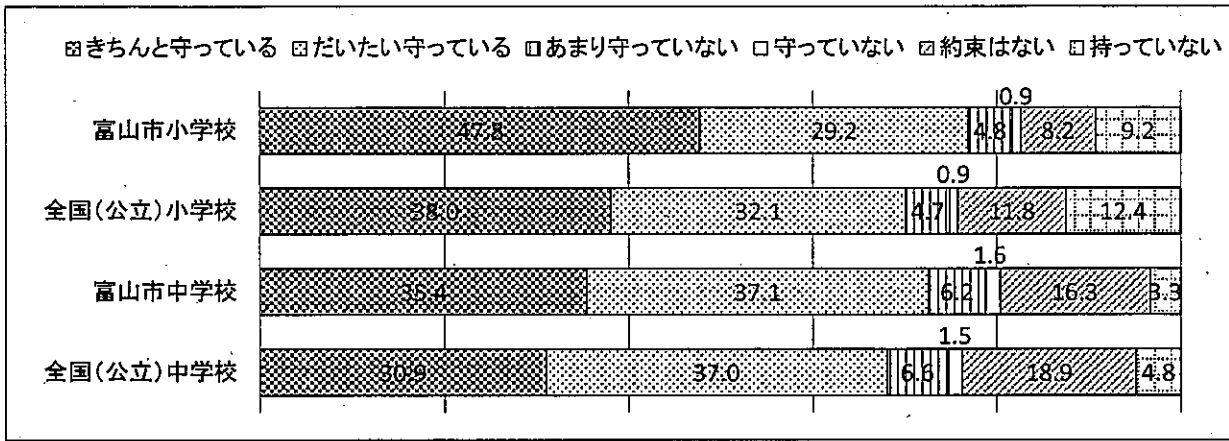
※ 「朝食を毎日食べている」「どちらかといえば、食べている」児童生徒の割合は全国より高い。

12 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



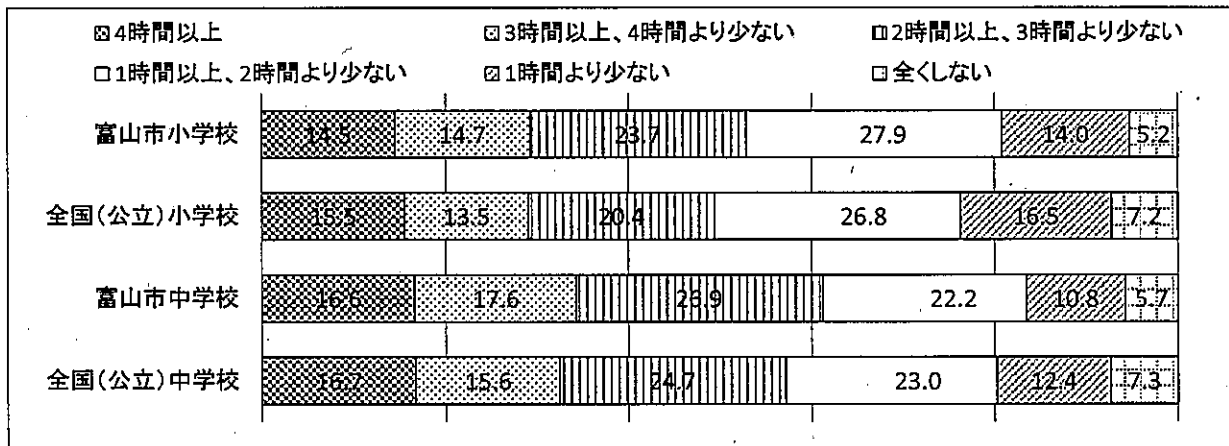
※ 「同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば、寝ている」児童の割合は全国より低く、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

13 ★携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



※ 「きちんと守っている」「だいたい守っている」児童生徒の割合は全国より高い。

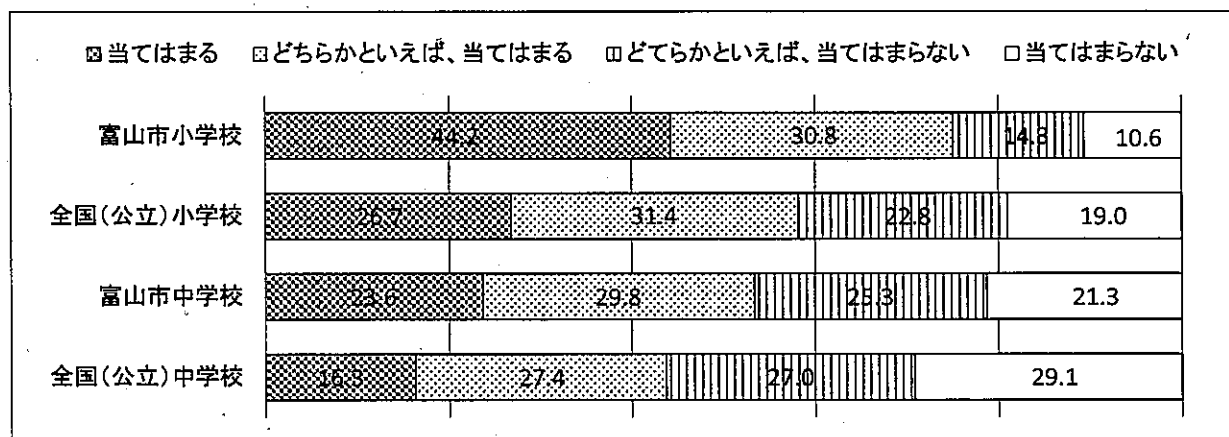
14 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。



※ 「普段(月～金曜日)、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間が1時間より少ない」児童生徒の割合は全国より低い。

【地域や社会に対する興味・関心】

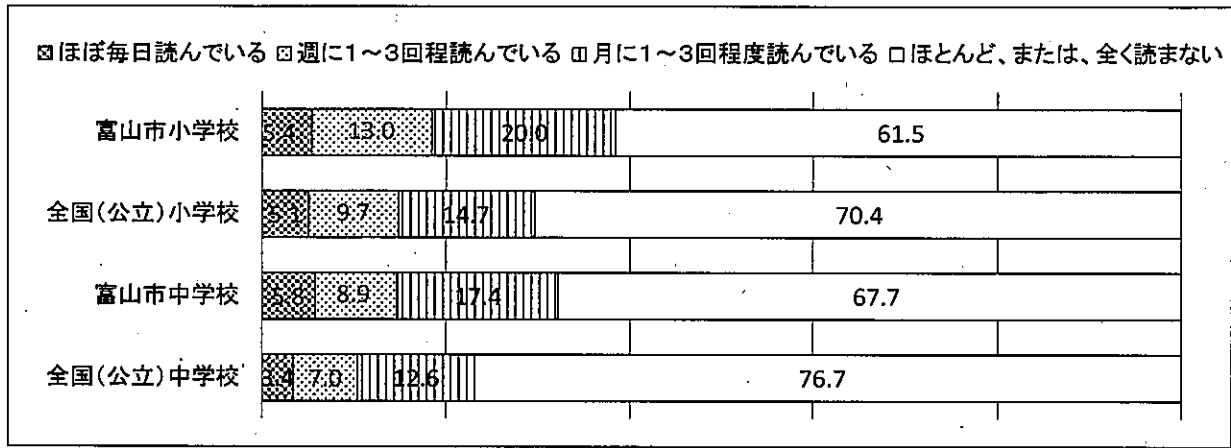
15 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



※ 「地域の行事に参加している」「どちらかといえば、している」児童の割合は全国よりかなり高く、生徒の割合は高い。



16 新聞を読んでいますか。



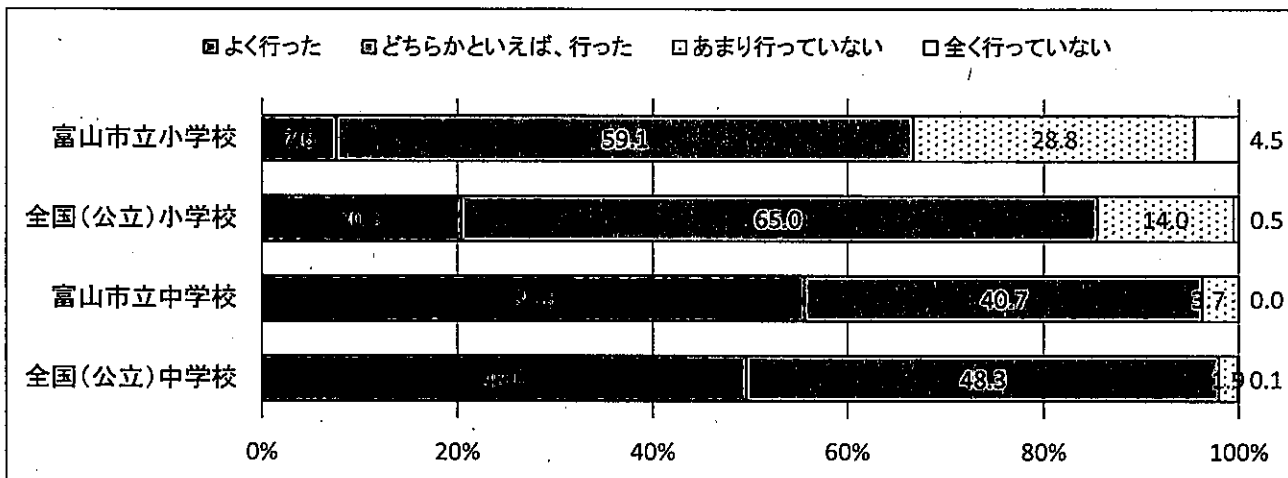
※ 「新聞を週1回以上読んでいる」児童生徒の割合は全国より高い。

5 学校質問紙調査 (◎のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)

※ その他・無回答は、データに含んでいない。

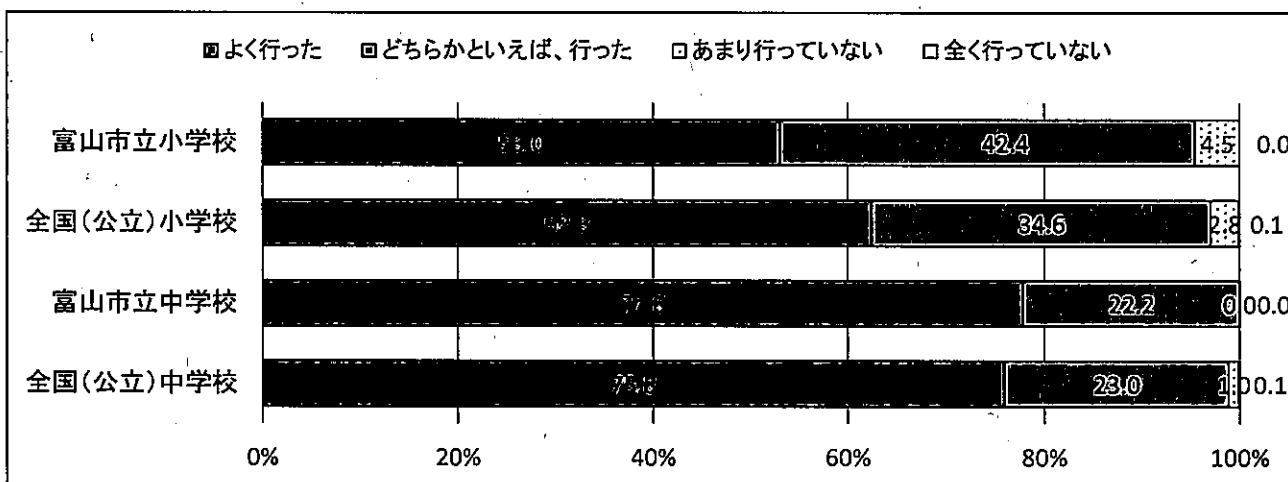
【児童・生徒指導等】

1 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした



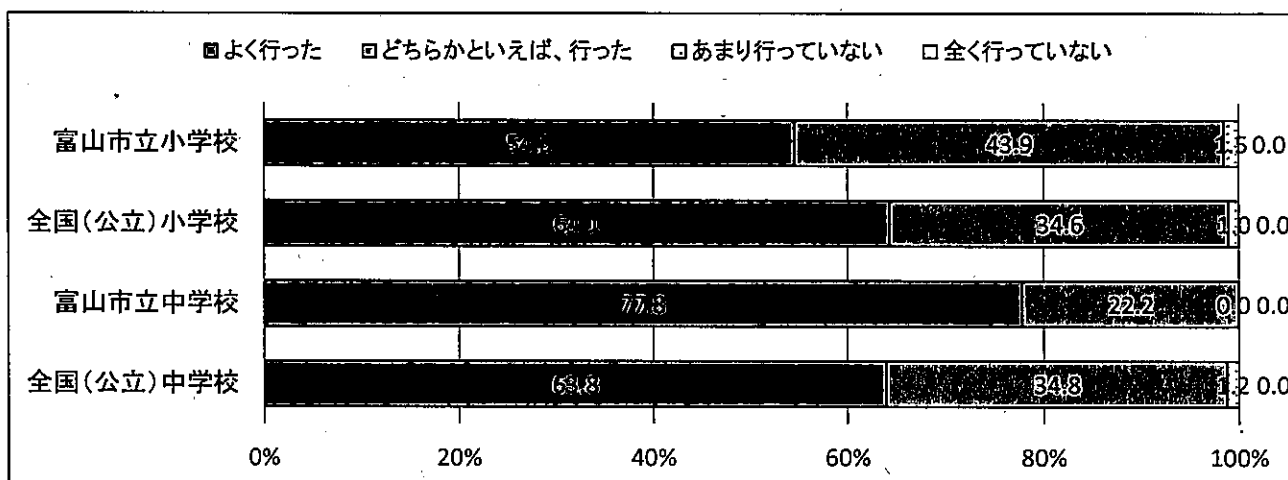
※ 「良く行った」「どちらかといえば、良く行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。

2 学習規律(他の人が話している時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど)を維持した



※ 「良く行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

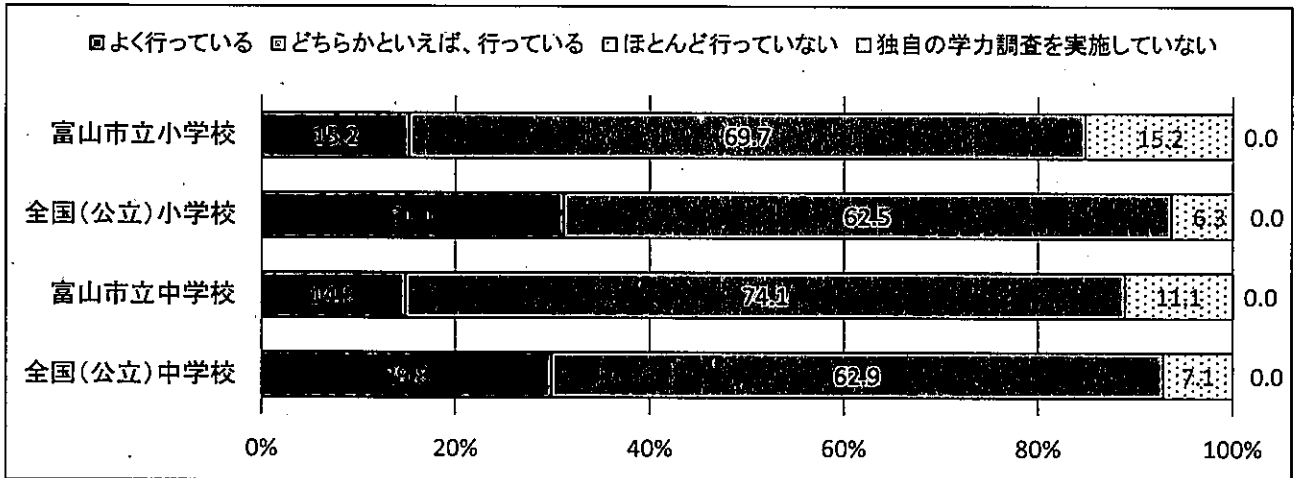
3 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った



※ 「良く行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

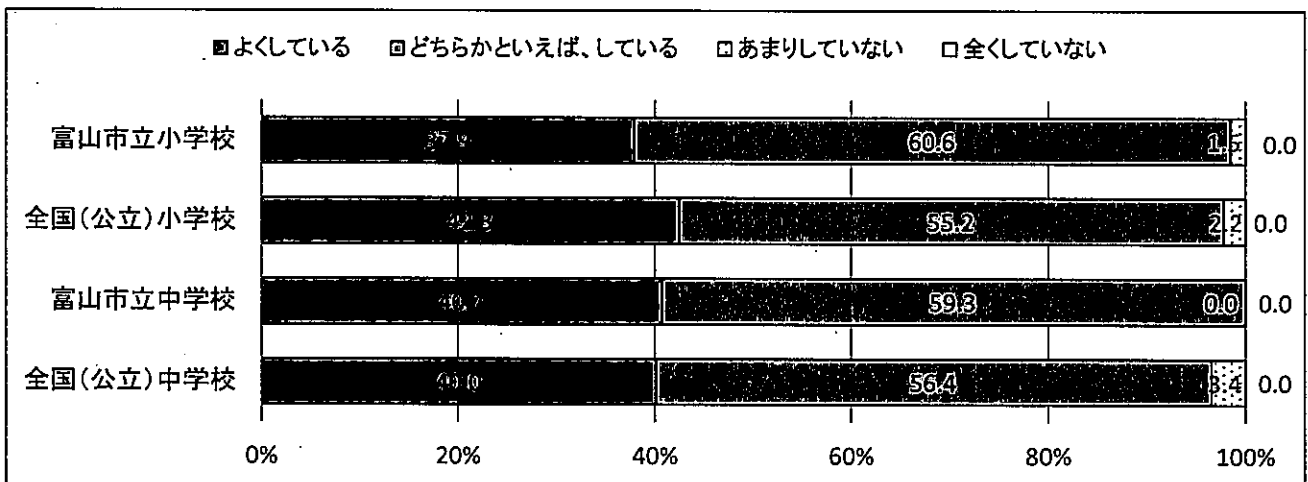
## 【学校運営に関する状況】

- 4 ◎児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



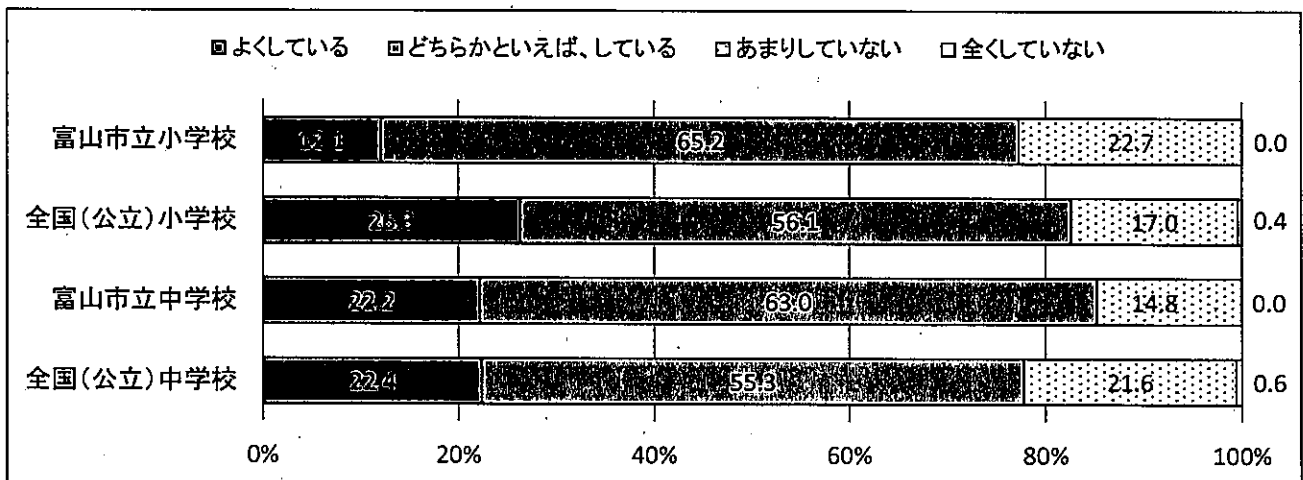
※ 「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はやや低い。

- 5 学校として業務改善に取り組んでいる



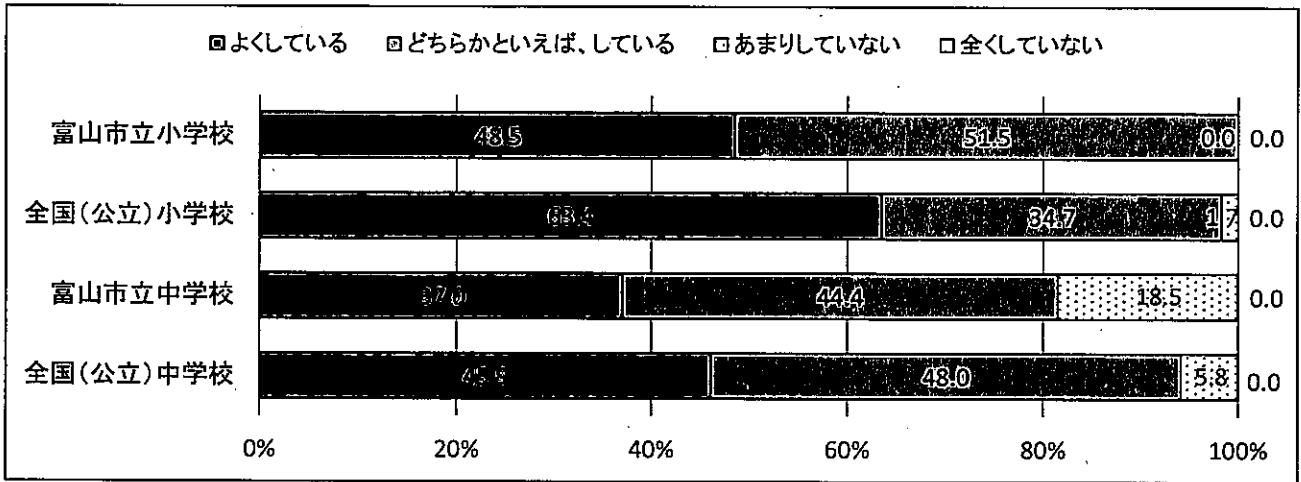
※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じであり、中学校はやや高い。

- 6 ◎児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校は高い。

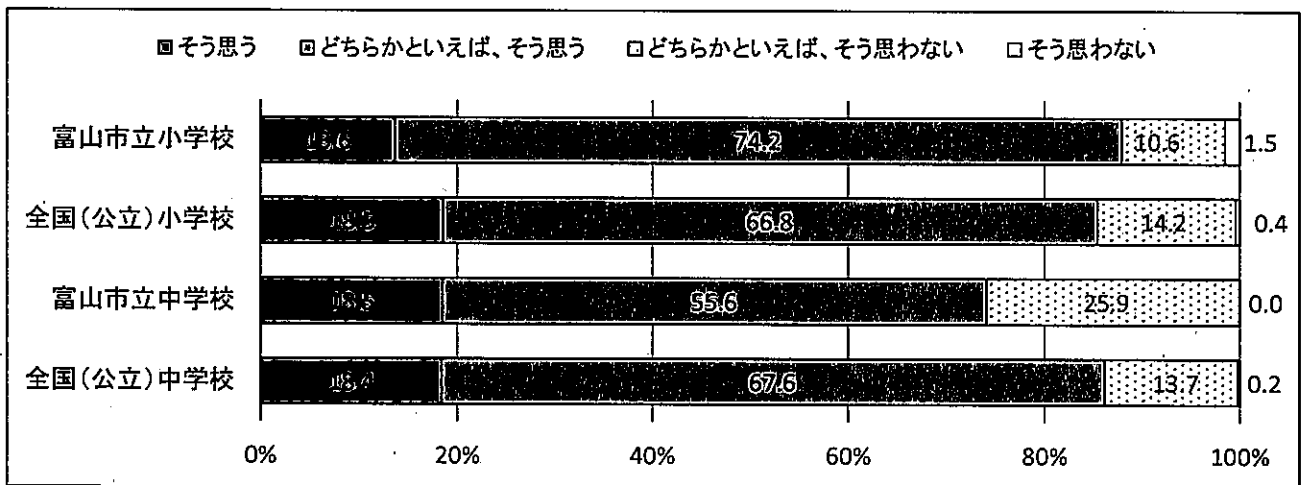
7 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じであり、中学校はかなり低い。

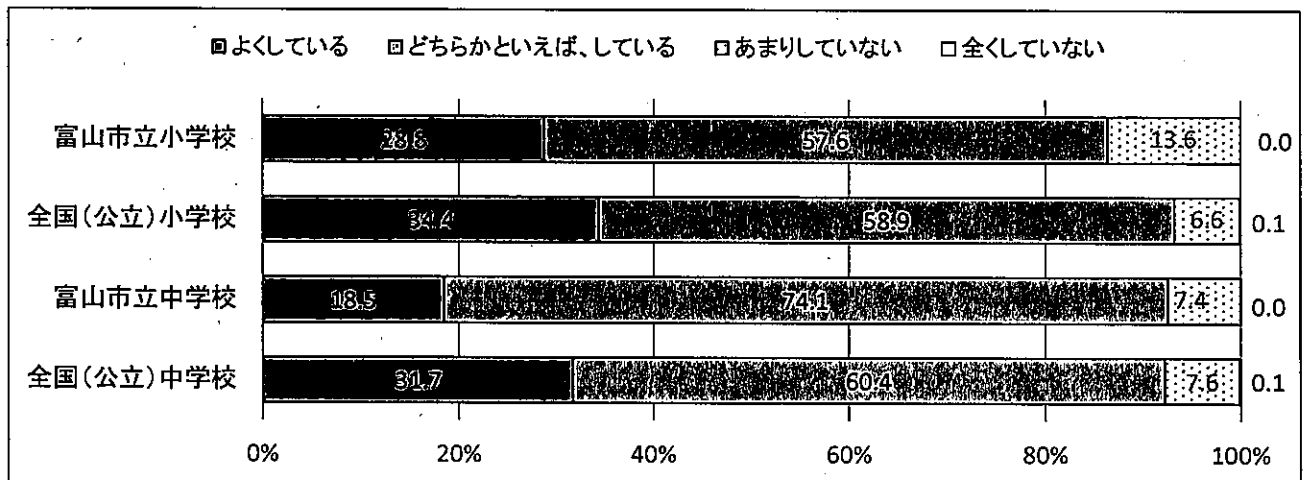
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

8 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている



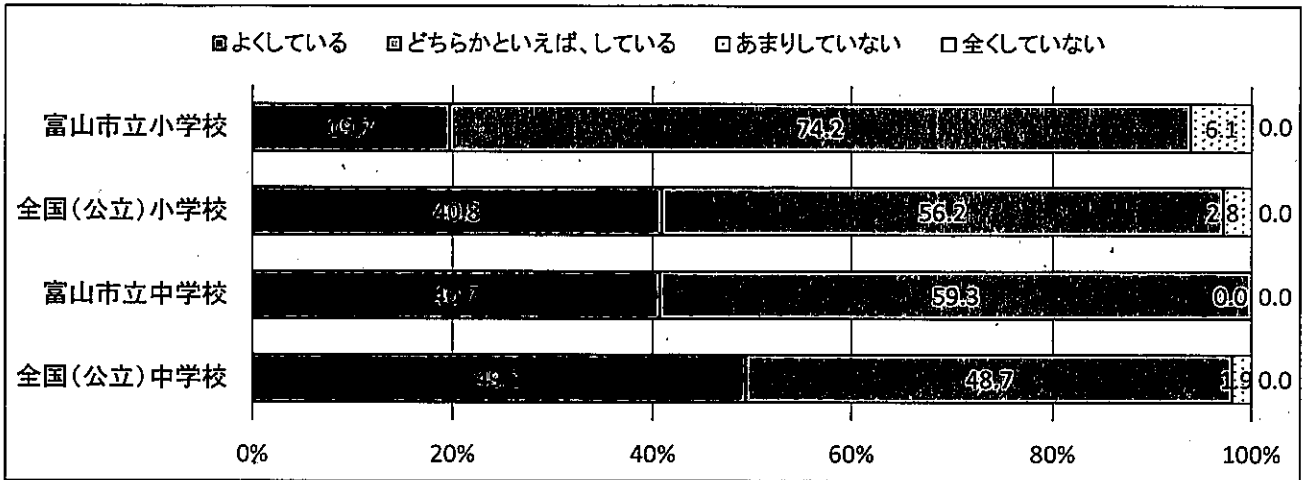
※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや高く、中学校はかなり低い。

9 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はほぼ同じである。

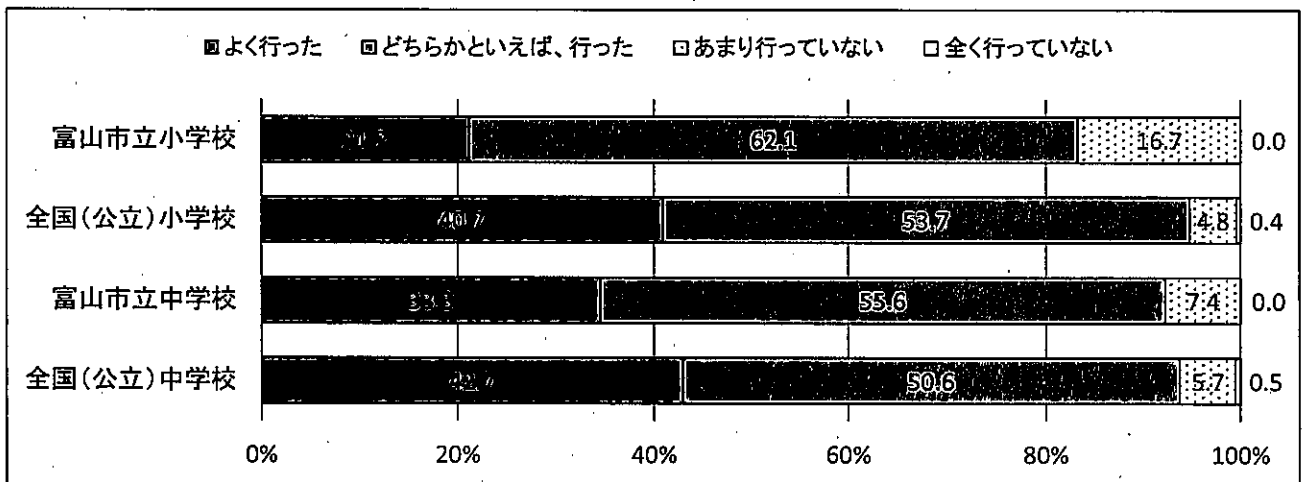
10 特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校はほぼ同じである。

【特別支援教育】

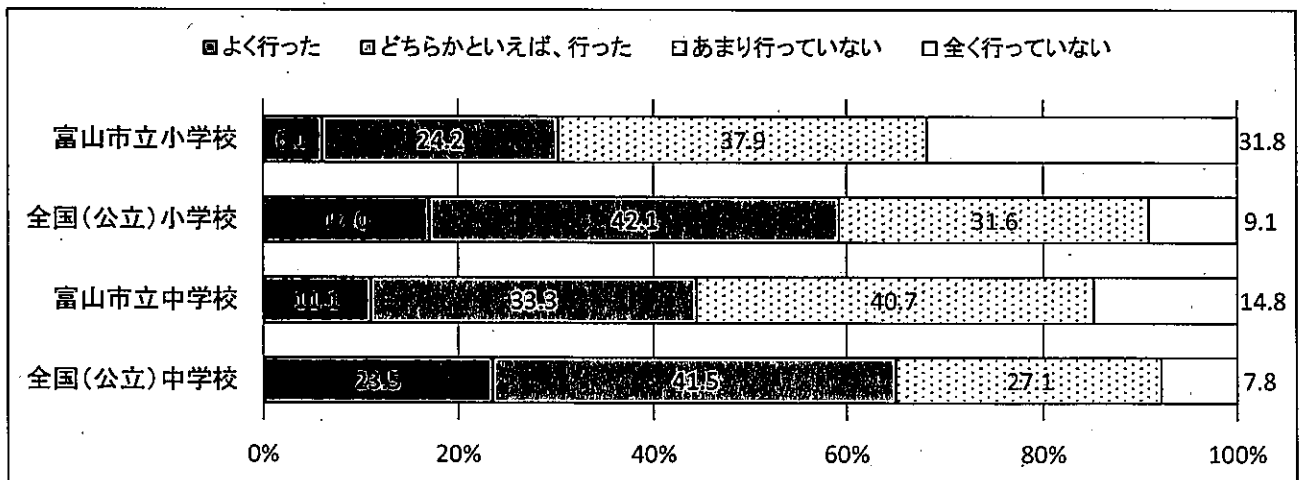
11 特別支援教育について理解し、授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校はやや低い。

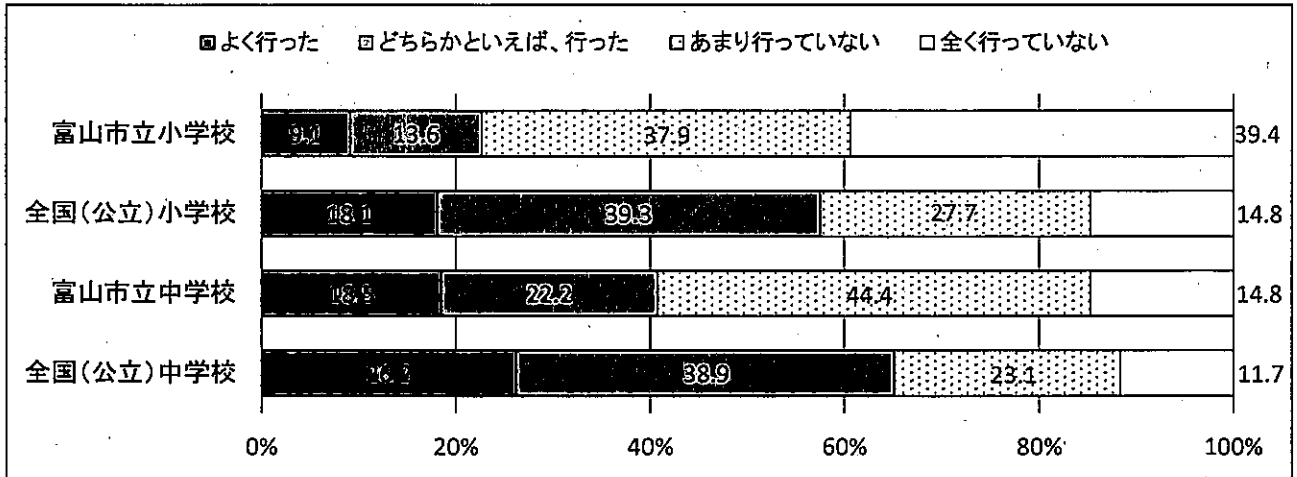
【小学校教育と中学校教育の連携】

12 近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取り組みを行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともかなり低い。

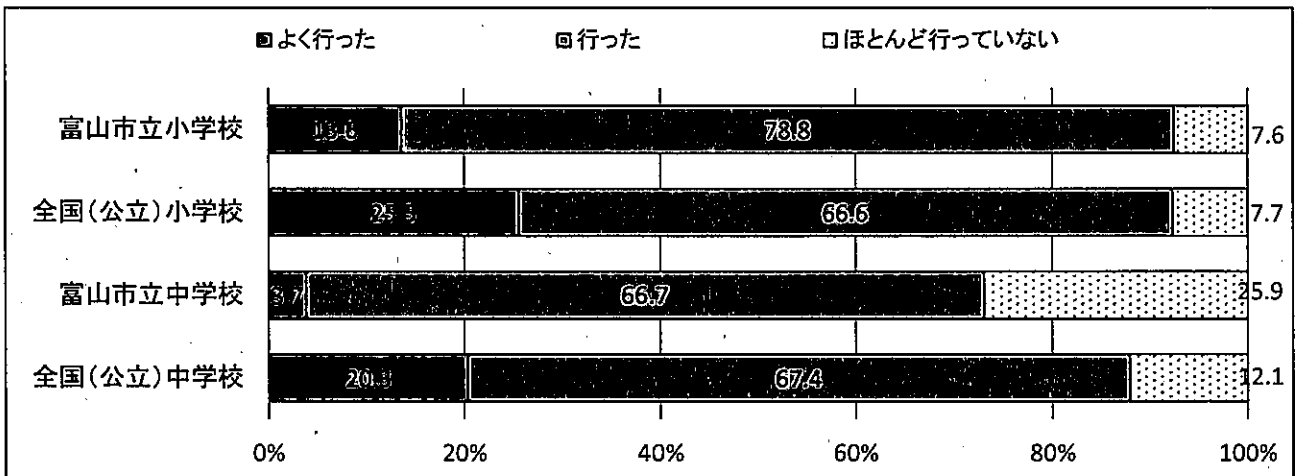
13 近隣等の小(中)学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともかなり低い。

【調査結果の活用】

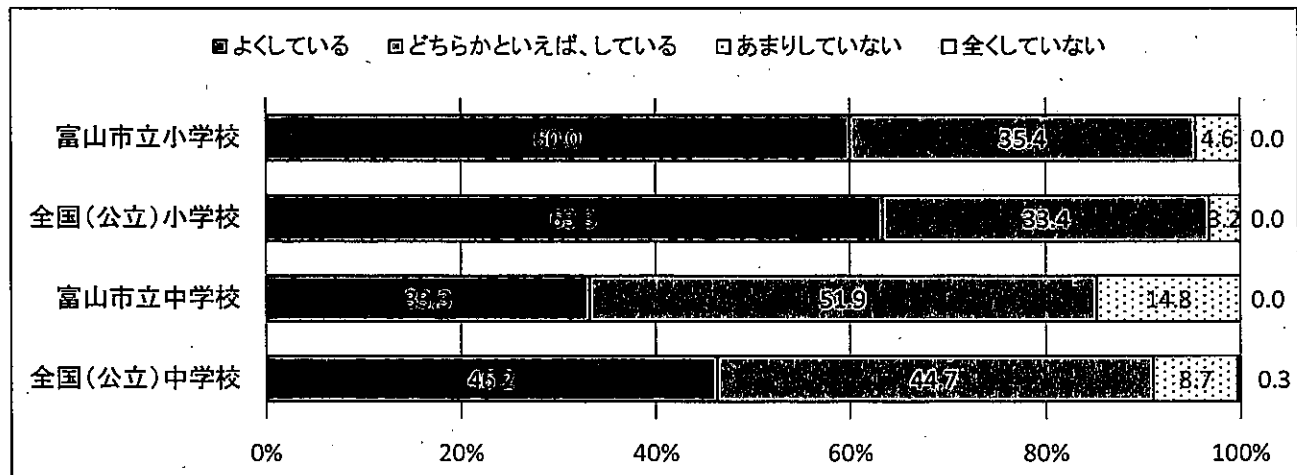
14 ◎平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した



※ 「よく行った」「行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じであり、中学校はかなり低い。

【教員研修】

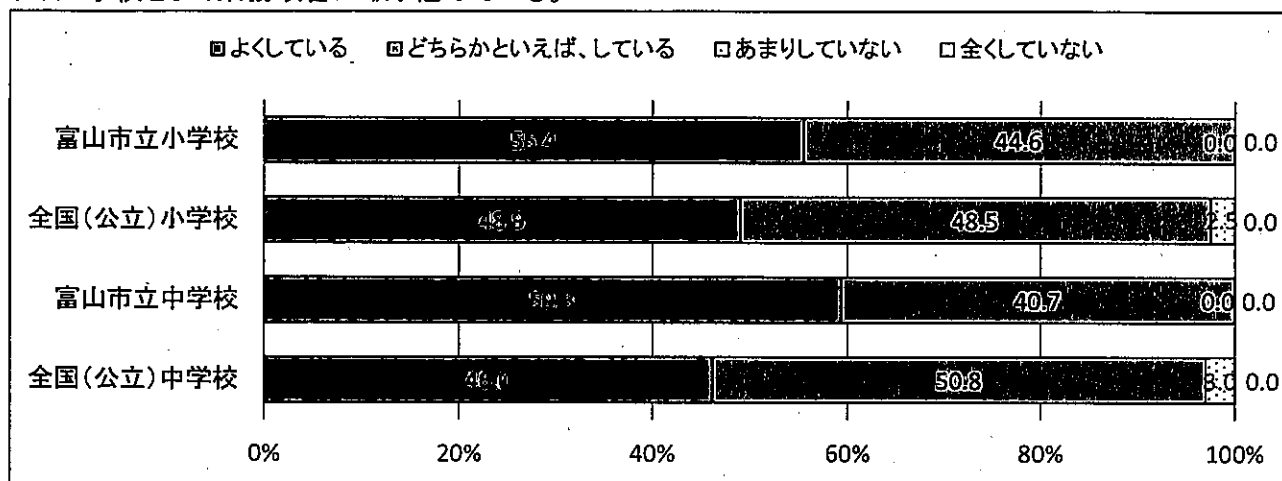
15 模擬授業や事例研究等、実践的な研修を行っている。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。

【教職員の取組】

16 ★ 学校として業務改善に取り組んでいる。



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小学校・中学校ともにやや高い。